作成:2024/10/02
科目コード:ND011

法学研究基礎

Introduction to Legal Studies
法学研究の手法を学ぶ

神橋　一彦／東條　吉純(KANBASHI KAZUHIKO/ TOJO YOSHIZUMI)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND011
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP5910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	後期課程科目 TX151「法学研究基礎」と合同授業 法学専攻の 1 年次生(特別進学生を除く)は自動登録		

授業の目標 / Course Objectives

法学研究に関して、研究倫理、論文執筆法、研究方法の基本を身につける。修士論文(リサーチ・ペーパー)執筆のための研究の出発点になる作業を行う。
Students will learn about research ethics, how to write papers, and basic research methods related to law studies. Students will do work which will act as a starting point for research to write a master's thesis (research paper).

授業の内容 / Course Contents

今後の研究を遂行するうえで予め知っておくべき研究倫理、文献探索法、論文執筆法について学ぶ。また、判例(最高裁判例と下級審裁判例)、判例評釈、法学分野の優れた論文を輪読することで、法学の研究方法について理解を深める。授業の具体的内容については、受講者の数、専門分野等を勘案し、最終的に決定する。
Students will learn about research ethics, literature search methods, and how to write papers which they need to know in advance to perform future research. In addition, students will deepen their understanding of law research methods by reading in turn judicial precedents (Supreme Court and lower court judicial precedents), judicial precedent annotations, and prominent papers in the field of law. The specific content of the class will be finalized after taking into account the number of participants, their field of expertise, etc.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:研究者倫理
【3】:学術論文とは何か
【4】:学術論文を書くために必要なこと
【5】:学術論文に求められる表現
【6】:学術論文のための調査①:判例研究の方法
【7】:学術論文のための調査②:文献資料研究の方法
【8】:学術論文のための調査③:判例文献情報の調査
【9】:判例研究の実践①
【10】:判例研究の実践②
【11】:文献資料研究の実践①
【12】:文献資料研究の実践②
【13】:文献リスト・論文チャプター作成セッション①
【14】:文献リスト・論文チャプター作成セッション②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

報告担当者、それ以外の履修者ともに、指定された教材の予習、復習が義務づけられる。また、各自の修士論文(リサーチペーパー)作成に向けて、文献リストの作成、仮テーマの設定、論文チャプター(アウトライン)と作成のための準備作業を行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および討論への参加:60% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

田高寛貴・原田昌和・秋山靖浩 『リーガル・リサーチ＆リポート〔第 2 版〕』 有斐閣 2019 9784641126114

日本学術振興会『科学の健全な発展のために』、立教大学法学部『ラーニングガイド』、立教大学 『Master of Writing』(MOW)およびその他の教材を配布する予定。

参考文献 / Readings

近江幸治 『学術論文の作法 第2版』 成文堂 2016 4792326915

戸田山和久 『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』 NHK 出版 2012 4140911948

資料を配布する。または Canvas LMS に電子ファイルをアップする予定。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

大学院における研究の必須事項を習得することを目的とすることから、特記事項はない。

作成:2024/10/02
科目コード:ND051

政治学研究基礎

Introduction to Political Science Research

孫　斉庸／安藤　裕介(SOHN JEYONG/ ANDO YUSUKE)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND051
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP5910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	後期課程科目 TX251「政治学研究基礎」と合同授業 政治学専攻の 1 年次生(特別進学生を除く)は自動登録		

授業の目標 / Course Objectives

修士号の獲得を目指して研究活動に入ろうとしている大学院の初学者が、研究倫理および論文執筆の方法、研究の方法について学び、不正のない方法で論文執筆を行うための基礎知識を身につけ、それに基づいて基礎的な研究活動を実践し、論文執筆のための基礎的な研究能力をつけること。

This course is designed for graduate students embarking on their journey towards a master's degree. It aims to provide foundational knowledge and skills necessary for engaging in research activities. Students will learn about research ethics, methods of research, and academic writing. The course is structured to ensure that students acquire the essential knowledge to conduct research and write academic papers ethically and competently. Furthermore, it will enable students to undertake basic research activities and develop foundational research competencies essential for thesis writing.

授業の内容 / Course Contents

近年、学術界において、様々な研究不正問題が発生している。政治学研究においても、引用や注の付け方などのルールを軽視または無視した結果、研究不正とみなされる事態を招く可能性がある。この授業では、まず研究の倫理を習得し、何が不正行為に当たるのかについての基礎的な知識を身につける。続いて、情報収集の方法を実践的に学ぶ。さらに、政治学の様々な分野で、それぞれどのような研究方法が取られてきたのかを学び、それらを応用して自らの研究テーマを論文の形にまとめるための力をつける。

前半では、今後の研究を遂行するうえであらかじめ知っておくべき研究倫理と論文執筆方法について学ぶ。後半では、政治学の各専門分野の代表的な著作、最新の優れた研究成果を輪読することで、政治学の様々な研究方法について理解を深める。

In recent years, various instances of research misconduct have emerged within the academic community. In the field of political science, overlooking or disregarding the rules of citation and annotation can lead to situations considered as research misconduct. This course begins with an introduction to research ethics, helping students to understand what constitutes unethical practices. Following this, students will learn practical methods of information gathering. The course also delves into the diverse research methodologies employed in various subfields of political science, enabling students to apply these techniques in developing their research topics into well-structured academic papers.

Initially, the course will cover crucial aspects of research ethics and methods of academic writing that are vital for future research activities. In the second half, students will enrich their understanding of political science research methods by studying and discussing key texts and the latest exemplary research in various sub-disciplines of the field.

授業計画 / Course Schedule

【1】:ガイダンス・担当者の決定

【2】:研究倫理(1)
【3】:研究倫理(2)
【4】:図書館授業内情報検索講習会
【5】:論文執筆方法(1)
【6】:論文執筆方法(2)
【7】:研究領域Ⅰ(理論研究)
【8】:研究領域Ⅱ(思想研究)
【9】:研究領域Ⅲ(歴史研究)
【10】:研究領域Ⅳ(地域研究)
【11】:研究領域Ⅴ(定性研究)
【12】:研究領域Ⅵ(定量研究)
【13】:リサーチデザインの発表(1)
【14】:リサーチデザインの発表(2)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

・報告担当者は教員および受講者に配付資料を用意して、担当箇所を要約して口頭で説明できるように準備する。
・それ以外の受講者は、次回の文献に目を通した後、前日午後 9 時までに、A4 一枚程度の「講読メモ」を教員と他の履修者にメールで送る。「講読メモ」の構成としては、内容の要約→内容に対する評価→疑問点・批判点などコメントがバランスよく含まれていることが望ましい。
・全受講者は、他の参加者が作成した「講読メモ」を事前にチェックしたうえで、授業当日には報告への質問やコメントなどを行って積極的に授業に参加する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 討論への参加:60% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会編 『科学の健全な発展のために : 誠実な科学者の心得』 丸善出版社 2015 年 9784621089149
眞嶋俊造・奥田太郎・河野哲也編著 『人文・社会科学のための研究倫理ガイドブック』 慶應義塾大学出版会 2015 年 9784766422559
川崎剛著 『社会科学系のための「優秀論文」作成術』 勁草書房 2010 年 4326000341
加藤淳子・境家史郎・山本健太郎編 『政治学の方法』 有斐閣 2014 年 9784641220379
G・キング、R・O・コヘイン、S・ヴァーバ著 『社会科学のリサーチ・デザイン : 定性的研究における科学的推論』 勁草書房 2004 年 4326301503

参考文献 / Readings

立教大学法学部『ラーニングガイド』
立教大学 Master of Writing(MOW)

作成:2024/10/02
科目コード:ND102

英米法特論

Anglo-American Law 2

岩田　太(IWATA FUTOSHI)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND102
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP5110
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

合衆国,オーストラリアを当該テーマ(今年度は Public Health & Law の予定)について, 関連文献を最低一冊は読了し, 当該テーマの基本論点について十分理解することを目標としうる. 同時に, 英語文献を1回に 30-40 ページのスピードで講読し, 自らの言葉で説明できることを目標とします.

Students are expected to read at least one book on the United States or Australia (Public Health & Law is scheduled for this year) and to have a good understanding of the basic issues of the topic. At the same time, students are expected to be able to read 30-40 pages of English literature at a time and to be able to explain in their own words.

授業の内容 / Course Contents

合衆国,オーストラリアなど比較法に関する法学文献(医療と法などに関連する英語文献)を1回に 30-40 ページのスピードで講読し各回レジュメを作成して頂いた上で,その理論・実態の理解を目標としたいと思います. 相当濃密な努力を期待します. 下記のように今年度は Public Health Law をテーマとして念頭においています.

＊テキストなどの相談をしたいので,参加者希望者は事前に iwata-f(アットマーク)kanagawa-u.ac.jp までご連絡頂けると幸いです. 半期で最低 1 冊(150-200 頁) (ないし 2 冊)(300-400 頁)を読みこなす予定です.

Parmet, Wendy E.. Constitutional Contagion: COVID, the Courts, and Public Health (English Edition) (p.iii). Cambridge University Press. Kindle 版.

積極的な発言を期待します. 各トピックについては, 教材(配布ないし各自準備)を読んだことを前提に, 受講者にプレゼンテーションや発言を求め, 議論をしたいと思います.

Students are expected to read 30-40 pages of comparative law literature (English literature related to medicine and law, etc.) from the United States, Australia, and other countries at a speed of 30-40 pages per session, and to prepare handouts for each session. All students are expected to make a very intensive effort. As described below, we have Public Health Law in mind as a theme for this year.

We would appreciate it if you could contact us at iwata-f(at mark) kanagawa-u.ac.jp in advance to discuss the textbooks and other materials. We plan to read at least one book (150-200 pages) (or two books) (300-400 pages) in a semester.

Parmet, Wendy E.. Constitutional Contagion: COVID, the Courts, and Public Health (English Edition) (p.iii). Cambridge University Press. Kindle 版.

Students are expected to actively participate in the class. I will ask students to make presentations and comments on each topic, based on the assumption that they have read the course materials (distributed or prepared by each student), and we will discuss them.

授業計画 / Course Schedule

【1】:授業の進め方,担当者決めなどを行います. 以下の予定はあくまでも目安であり, 進捗状況によって変更の可能性があります.

【2】:2-14 回 講読
講読 Acknowledgments List of Abbreviations Introduction: Disaster Awaits
【3】:講読 1 A New Approach
【4】:講読 2 Salus Populi Suprema Lex
【5】:講読
3 The End of Salus Populi
【6】:講読
4 COVID Comes to Court
【7】:講読
5 The Mandate Wars
【8】:講読
6 An Asymmetry of Rights
【9】:講読
7 An Unequal Pandemic
【10】:講読
8 The Infodemic
【11】:講読
9 An Unhealthy Polity
【12】:講読
Conclusion: ″A Republic, if You Can Keep It″
【13】:Discussion
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回報告および質疑応答の準備のために最低 3-4 時間の準備が求められる.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 報告:50% クラス参画・質疑応答・ディスカッション:50%

テキスト / Textbooks

Wendy E. Parmet Constitutional Contagion: COVID, the Courts, and Public Health Cambridge University Press. Kindle 版. 2016 9781009093835

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

Englsih

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

N/A

作成:2024/10/02
科目コード:ND104

法哲学特論

Philosophy of Law 2
現代正義論の基本文献を精読する

米村　幸太郎(YONEMURA KOTARO)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND104
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP5010
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

現代正義論の基本文献を精読することによって、法哲学の議論を分析・批判する能力を涵養する。
The aim of this course is to analyze and criticize philosophical arguments, through reading papers on contemporary theories of justice.

授業の内容 / Course Contents

現代正義論の基本文献を精読することによって、法哲学の議論を分析・批判する能力を涵養する。
The aim of this course is to analyze and criticize philosophical arguments, through reading papers on contemporary theories of justice.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:文献講読
【3】:文献講読
【4】:文献講読
【5】:文献講読
【6】:文献講読
【7】:文献講読
【8】:文献講読
【9】:文献講読
【10】:文献講読
【11】:文献講読
【12】:文献講読
【13】:文献講読
【14】:文献講読

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回文献を事前に読んでくる必要がある。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業中の議論への参加状況:50% 担当発表:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:ND107

国際法研究

International Law 1
国際法専門文献研究

岩月　直樹(IWATSUKI NAOKI)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND107
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP5110
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

国際法に関する専門文献の精読を通じて、国際問題を法的に分析し、論文を作成する能力を養う。
The aim of this course is to develop participants' legal thinking skills through analyzing specialized literatures on international law.

授業の内容 / Course Contents

各回のテーマに応じた対象文献についての参加者による報告と質疑応答、議論を通して検討する。
対象文献は、参加者の関心と国際法の習熟度に応じて決定する。
Designated participants prepare and submit a report on assigned literatures in advance.
The literatures to be picked up will be assigned according to the interests of the participants, ranging from those related to the basic issues of international law to those dealing with cutting-edge issues.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション:授業の進め方
【2】:専門文献研究1
【3】:専門文献研究2
【4】:専門文献研究3
【5】:専門文献研究4
【6】:専門文献研究5
【7】:専門文献研究6
【8】:専門文献研究7
【9】:専門文献研究8
【10】:専門文献研究9
【11】:専門文献研究10
【12】:専門文献研究11
【13】:専門文献研究12
【14】:専門文献研究13

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の対象文献について、全員が熟読の上、報告者はレジュメを作成し事前に配布することが求められる。
演習では、報告書について、質疑応答を通して内容の正確な理解を深めると同時に、批判的な検討を加える。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 検討事項の積極的な提起:20% 調査に基づく情報の提供:30% 建設的な批判・意見の提示:30% 読み手を意識した適切な資料作成:20%

テキスト / Textbooks

岩沢雄司『国際法［第2版］』東京大学出版会 2023 9784130323987
＊各論題に関連する基本資料は、適宜配布する。

参考文献 / Readings

森川幸一（他）『国際法で世界がわかる』岩波書店 2016 9784000229555
森肇志・岩月直樹（編）『サブテクスト国際法』日本評論社 2020 9784535524729

作成:2024/10/02
科目コード:ND108

国際法特論

International Law 2

許　淑娟(HUH SOOKYEON)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND108
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP5110
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

国際法の基本事項に関する発展的な問題を扱った英語文献の検討を通じて、国際法を研究する上での基本的な理論と概念についての理解を深める。今年度は旗国管轄権を主なテーマとする予定であるが、受講生の関心に応じて、調整する。

Acquiring basic theoretical underpinnings and concepts through in-depth examination of documents and articles dealing with the current international affairs.

授業の内容 / Course Contents

各回 1 つの英語文献を対象として取り上げ、その検討を通じて、1. 英文で説明されている内容を、日本語で正確に説明できる力を身につけ、2. 取り上げられているテーマについて、どのような問題意識に基づいて取り上げられており、何が重要な事項として示されているのかを把握し、それを簡潔にまとめて示すことができる文章力を身につける。

Fostering the ability to catch the essence of the question and the assertion of the author and to summarize and explain them　in succinct manner in Japanese.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション:授業の進め方、基本文献、参考文献についての説明。
【2】:参加者による報告・討論
【3】:参加者による報告・討論
【4】:参加者による報告・討論
【5】:参加者による報告・討論
【6】:参加者による報告・討論
【7】:参加者による報告・討論
【8】:参加者による報告・討論
【9】:参加者による報告・討論
【10】:参加者による報告・討論
【11】:参加者による報告・討論
【12】:参加者による報告・討論
【13】:参加者による報告・討論
【14】:総括討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○

実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

1. 指定された文献について、教科書を使って基本的知識を確認しながら要約する。関連する文献を検索し、文献リストを作成すること。
2. 要約をふまえ、特に議論で取り上げたい事項、論点についての自らの疑問点、意見をまとめる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 事前レジュメの提出:30% 要約及び見解の授業内でのプレゼンテーション:30% 授業内での建設的な疑問及び批判の提示:30% 議論への積極的参加:10%

テキスト / Textbooks

J. Weiler International law:Critical Concepts in Law Routledge 2011 9780415400299
Henrik Ringbom Jurisdiction Over Ships Brill 2015 9789004303492
該当箇所につき授業時に配布する。

参考文献 / Readings

酒井啓亘（他）『国際法』 有斐閣 2011 9784641046559
岩沢雄司『国際法』 東大出版会 2023 9784130323918
＊授業内で適宜配布あるいは指示する。

作成:2024/10/02
科目コード:ND109

国際経済法研究

Intenational Economic Law 1
WTO 補助金判例研究

東條　吉純(TOJO YOSHIZUMI)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND109
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP5410
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

WTO 紛争解決制度についての基本的理解を得ること，および，最近の WTO 判例の読解を通じて，補助金による産業政策に対する WTO 協定上の規律について学ぶこと。
This course aims to help students obtain basic understanding of the World Trade Organization's (WTO's) dispute settlement system and learn main regulations on subsidies by reading recent reports of panels and the Appellate Body.

授業の内容 / Course Contents

補助金に関する主要な WTO 判例を講読します。毎回，受講者による報告とクラス全体の討議を行います。
This course addresses several important cases regarding subsidy regulation by World Trade Organization (WTO) law. Each student makes a presentation, which is followed by student discussion.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:WTO 紛争解決制度の概要確認
【3】:WTO 補助金判例①
【4】:WTO 補助金判例①
【5】:WTO 補助金判例①
【6】:WTO 補助金判例②
【7】:WTO 補助金判例②
【8】:WTO 補助金判例②
【9】:WTO 補助金判例③
【10】:WTO 補助金判例③
【11】:WTO 補助金判例③
【12】:WTO 補助金判例④
【13】:WTO 補助金判例④
【14】:WTO 補助金判例④

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各回で扱うWTO判例(英文)の予習

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業への積極的参加・発言:100%

テキスト / Textbooks

初回に指示する。

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:ND111

民法研究　A

Civil Law A1
民法・消費者法の現代的諸問題

野澤　正充(NOZAWA MASAMICHI)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND111
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP5210
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	学部科目 EX865「演習」と合同授業		

授業の目標 / Course Objectives

民法・消費者法の分野で現在問題となっているさまざまなテーマについて、文献講読を通じて理解を深めることを目標とします。
The aim of this course is to promote better understanding of civil law's problems and consumer law' problems in modern society through reading literature.

授業の内容 / Course Contents

この授業では，民法・消費者法の分野で現在問題となっているさまざまなテーマについて、各学生の関心に応じて基本的な文献や判例を検討します。
本授業では、受講者の皆さんの自主性を重視します。すなわち，受講者の有する問題関心に応じて講読文献を選択し、担当者による報告と受講者全員による議論を行います。
講義の具体的なテーマに関しては第 1 回目の授業の際に決定するので、受講者は必ず第 1 回目の授業に出席してください。
In this course, we will examine basic literature and case laws based on the interests of each student on various issues related to the Civil Law.
This class emphasizes the autonomy of the students. In other words, the literature to be read is selected according to the interests of the students. In each class, there will be a report by the person in charge and a discussion by all the participants.
Students must attend the first class as the topics of each session will be decided during the first class.

授業計画 / Course Schedule

【1】:受講者との打ち合わせ
【2】:文献講読 1
【3】:文献講読 2
【4】:文献講読 3
【5】:文献講読 4
【6】:文献講読 5
【7】:文献講読 6
【8】:文献講読 7
【9】:文献講読 8
【10】:文献講読 9
【11】:文献講読 10
【12】:文献講読 11

【13】: 文献講読 12
【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

初回の打ち合わせで講読文献を決定します。担当者は指定文献およびその他の関連文献を熟読し、比較検討等を行ったうえで報告をします。その他の受講者は指定文献を熟読して議論の準備をして授業に臨みます。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 報告内容:50% 討議内容:50%
全ての評価方法において合同授業を履修する学部生よりも高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

第 1 回の授業で相談の上、決定します。

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:ND114

民法特論　B

Civil Law B2
留学生と学ぶ東アジア比較民法

山口　敬介(YAMAGUCHI KEISUKE)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND114
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP5210
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	学部科目 EX855「演習」と合同授業		

授業の目標 / Course Objectives

民法の諸テーマについて、日本法と東アジア(主に韓国、他に中国、台湾など)法を比較し、双方の法と社会について理解を深め、さらに、広い研究的視野を得ること
The aim of this course is to promote better understanding of civil law and society in Japan and east Asia

授業の内容 / Course Contents

19 世紀末にヨーロッパの民法典などを参考にしながらつくられた日本の民法典は、その後、判例・学説・立法などによりさまざまな変化を経て、現在に至っています。このようにヨーロッパ由来の民法典を参考に自国の民法典をつくり、それを展開させていくことで自国における私人間の法関係を規律している国は、日本だけではありません。近隣の国を例にとると、韓国も、台湾も、中国も同じようなプロセスを経ています。そして、これらの国の法ルールやそれにより規律される社会のあり方は、同じ東アジアの中でも様々に異なっています。この演習では、民法のいくつかの具体的なテーマを取り上げ、日本と東アジアの民法を比較しながら、近隣のこれらの国の何が同じで何が違うのかを探求することを通じ、これらの国の法と社会について理解を深めることを目標とします。このゼミでは、留学生の積極的な履修を歓迎します。ゼミを通じて学生間の交流を深めることも目標の一つです。
具体的テーマは受講生と検討の上で決定する予定ですが、不動産の賃貸借(韓国)、生殖補助医療(韓国)、相続法改正(台湾)、デジタル取引と消費者法(中国)、プライバシー・名誉毀損(韓国、台湾、中国)などのテーマを考えています。講義の具体的なテーマは第 1 回目の授業の際に決定するので、受講者は必ず第 1 回目の授業に出席してください。
なお、この授業は学部との合併で行われる授業です。
In this course, we will try to compare civil law and society in east Asia.
The specific topic of the lecture will be decided during the first lecture, so students should make sure to attend the first lecture.

授業計画 / Course Schedule

【1】:受講者との打ち合わせ
【2】:報告 1
【3】:報告 2
【4】:報告 3
【5】:報告 4
【6】:報告 5
【7】:報告 6
【8】:報告 7
【9】:報告 8
【10】:報告 9

【11】:報告 10
【12】:報告 11
【13】:報告 12
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

初回の授業で研究対象を決定します。毎回の報告では、担当者がレジュメの他、関連文献を用意し、その他の受講者はそれらを熟読して議論の準備をして授業に臨みます。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 報告内容:50% 授業時の発言内容:50%
全ての評価方法において合同授業を履修する学部生よりも高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

第 1 回の授業で相談の上、決定します。

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:ND116

商法特論

Commercial Law 2
商法・会社法文献講読

高橋　美加(TAKAHASHI MIKA)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND116
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP5210
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

会社法分野における優れた論文を読み、当該分野における理解を深めることを目的とする。
The aim of this seminar is to read outstanding theses in fields pertaining to the Companies Act and deepen understanding of the relevant field.

授業の内容 / Course Contents

会社法の各分野における優れた論文を読み、これを批判的に検討することを通じて、当該分野における理解を深めることを目的とする。できる限り、近時の論文を対象とするが、分野によっては古典的内容の論文(しかし、今なお検討に値する論文)を対象としたい。
The aim of this seminar is to read outstanding theses in fields pertaining to the Companies Act and deepen understanding of the relevant field through critical consideration thereof. To the extent possible, recent theses will be used, however, depending on the specific field, theses with classic content (however, which are still worthy of consideration today) will be used.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション
【2】:設立
【3】:株式(1)
【4】:株式(2)
【5】:株主総会(1)
【6】:株主総会(2)
【7】:取締役・取締役会(1)
【8】:取締役・取締役会(2)
【9】:取締役・取締役会(3)
【10】:株式発行(1)
【11】:株式発行(2)
【12】:計算
【13】:組織再編(1)
【14】:組織再編(2)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	

個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

あらかじめ指定された論文を事前に読み、その内容を理解すると同時に、授業に向けて疑問点等を整理しておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業への参加態度:100%

テキスト / Textbooks

各回ごとに論文を指定し、事前に配布する。

参考文献 / Readings

授業内で指示する。

作成:2024/10/02
科目コード:ND117

民事訴訟法研究

Civil Procedure 1

貝瀬　幸雄(KAISE YUKIO)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND117
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP5210
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

比較法および比較民事訴訟法の基礎理論を研究する。テキストとして私の『現代アメリカ比較法学の行方』を精読し、その内容について議論する。

We will study the basic theory of comparative law and comparative civil procedure. We will read my book on new directions of American comparative law intensively and discuss about it.

授業の内容 / Course Contents

『現代アメリカ比較法学の行方』を精読し、参加者はその内容について各自報告する。ヨーロッパ民事訴訟法についても基本文献を読む予定である。

We will read New Directions of Comparative Law intensively and report about it respectively. Furthermore, We will read basic articles on European civil procedure.

授業計画 / Course Schedule

【1】:現代アメリカ比較法学の行方(1)
【2】:現代アメリカ比較法学の行方(2)
【3】:現代アメリカ比較法学の行方(3)
【4】:現代アメリカ比較法学の行方(4)
【5】:現代アメリカ比較法学の行方(5)
【6】:現代アメリカ比較法学の行方(6)
【7】:現代アメリカ比較法学の行方(7)
【8】:現代アメリカ比較法学の行方(8)
【9】:ヨーロッパ民事訴訟法(1)
【10】:ヨーロッパ民事訴訟法(2)
【11】:ヨーロッパ民事訴訟法(3)
【12】:ヨーロッパ民事訴訟法(4)
【13】:ヨーロッパ民事訴訟法(5)
【14】:結論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストを必ず事前に精読し、報告すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 担当報告の内容:70% 平常の授業態度:30%

テキスト / Textbooks

貝瀬幸雄『現代アメリカ比較法学の行方』日本評論社 2022

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:ND118

民事訴訟法特論

Civil Procedure 2
ドイツ民事訴訟法の基礎

安達　栄司(ADACHI EIJI)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND118
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP5210
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

ドイツ語の民事訴訟法の文献を読んで理解できること。
Develop the ability to understand the Code of Civil Procedure literature written in German.

授業の内容 / Course Contents

ドイツ法の論文判例を読む。ドイツ語の基礎知識が必要である。民事訴訟法の論文の読み方・書き方を指導する。

Read German law papers and case law. Basic knowledge of German is required. I will carefully teach you how to read and write a dissertation in the Code of Civil Procedure.

授業計画 / Course Schedule

【1】:文献講読1
【2】:文献講読2
【3】:文献講読3
【4】:文献講読4
【5】:文献講読5
【6】:文献講読6
【7】:文献講読7
【8】:文献講読8
【9】:文献講読9
【10】:文献講読10
【11】:文献講読11
【12】:文献講読12
【13】:文献講読13
【14】:文献講読14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

比較法の授業の受講。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 小テスト(25%×2 回):50% 最終レポート割合::40%最終テスト割合::10%

テキスト / Textbooks

担当教員がコピーを配布します。

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:ND119

知的財産法研究

Intellectual Property Law 1

長谷川　遼(HASEGAWA RYO)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND119
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP5510
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

知的財産法に関する海外の文献を精読する。
Reading foreign materials about Intellectual Property Law intensively.

授業の内容 / Course Contents

知的財産に関する海外の文献を精読する。

知的財産法は、発展的かつ法領域横断的な分野である。どこまでが、民法・刑法・手続法・行政法等の基本的な法領域の議論に還元できるのか、どこからが知的財産法に特殊な問題なのか、といった点が、未だ十分に明らかにされているとは言えない。また近時は、憲法、競争法、労働法といった領域との交錯も強く意識されている。したがって、他の分野を専攻する者にとっても、知的財産法の議論の参照は有益なものになると思われる。知的財産法を専攻する学生は勿論、多様なバックグラウンド・関心を持った学生の参加を期待している。

We read foreign materials about Intellectual Property Law intensively.

Intellectual Property Law is developing rapidly and cuts across legal domains. One cannot say that questions such as to what extent issues can be reduced to discussions in the fundamental legal domains of Civil Law, Criminal Law, Procedural Law, Administrative Law, etc. and from what point do problems which are specific to Intellectual Property Law start have been sufficiently clarified. Recently, strong awareness has arisen of the intersection with domains such as the Constitution, Competition Law, and Labor Law. Therefore, referring to discussions in Intellectual Property Law are likely to prove useful to students majoring in other fields. Students majoring in Intellectual Property Law are, of course, welcome, but it is hoped that students with a diverse range of backgrounds and interests will participate.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション
【2】:オリエンテーション
【3】:文献精読
【4】:文献精読
【5】:文献精読
【6】:文献精読
【7】:文献精読
【8】:オリエンテーション
【9】:文献精読
【10】:文献精読
【11】:文献精読
【12】:文献精読
【13】:文献精読

【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

事前に次回までに読み込むべき文献を指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告内容:50% 議論への参加:50%

テキスト / Textbooks

授業中に指定する。

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

日本の知的財産法の知識を有し、英語文献を読めること。

作成:2024/10/02
科目コード:ND121

労働法研究

Labor Law 1

島村　暁代(SHIMAMURA AKIYO)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND121
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP5410
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

労働法と社会保障法の連携というテーマに関して文献(日本語のものもあれば，外国語のものもありうる)を読み込むことによって，論文の書き方や検討の方法，分析軸の立て方等の手法を確認し，論理的な文章を書くための素養を身につけることを目的とする。

The purpose of the lecture is to acquire skills of logical writing. This lecture deals with methods of writing essays and approaching or examining issues by deeply reading materials (in Japanese or in foreign language) on cooperation between Labor Law and Social Security Law.

授業の内容 / Course Contents

参加者は毎回，労働法と社会保障法の連携というテーマに関する文献を丹念に読み込み，担当部分の全訳を作成するなど，周到な準備が求められる。可能な限り他の関連文献も取り扱う予定であり，量的にも相当多くなると考えられるので，本テーマに強い関心をもつ者の参加を期待する。

In this lecture, participants will read materials on labor law and social security law. Participants are required to carefully read the materials designated in advance and fully prepare for the classes every time. As the preparation is expected to be considerable volume, those who have　a strong interest in labor law and social security law are welcomed.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:基礎知識の確認
【3】:文献講読
【4】:文献講読
【5】:文献講読
【6】:文献講読
【7】:文献講読
【8】:文献講読
【9】:文献講読
【10】:文献講読
【11】:文献講読
【12】:文献講読
【13】:文献講読
【14】:総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

日本における労働法や社会保障法に関する法制度を基本的に理解している必要があります。それぞれの回は、担当者による報告を中心に議論を進めていくので、担当になった場合には論文に書かれていることだけでなく、その背景等についても丹念に調査の上で、報告することが求められます。また、報告担当でない場合でも、事前に指定される文献を読み込んで予習した上で参加することが不可欠です。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 出席・発言内容:40% 報告内容:40% 最終レポート割合::20%
2回連続無断欠席、通算3回の欠席の場合は、原則として成績評価の対象としない。

テキスト / Textbooks

講義中に指示する。

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:ND124

国際私法特論

Conflict of Laws 2

早川　吉尚(HAYAKAWA YOSHIHISA)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND124
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP5210
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

国際私法, 国際民事手続法のより専門的な知見を修得させる。
The aim of this course is for students to acquire more specialized knowledge about Conflict of Laws and international codes of civil procedure.

授業の内容 / Course Contents

国を異にする二つの企業が国際的な取引を行い, その結果, 紛争が発生する。国家の裁判所を利用して紛争を解決する既存の国際民事訴訟のスキームでは, まず, どちらの国の裁判所で当該紛争を解決するかという点に争いが生じてしまい, 効率的な紛争の解決がおぼつかないことが少なくはない。それでは, どちらの国の裁判所も用いずに紛争を解決する, いや, そもそも国家の裁判所を用いずに紛争を解決したらどうか。そうした発想から登場したのが「国際商事仲裁」という紛争解決形態であり, 欧米を中心とした国際商取引の世界において長らく用いられ, その重要性は, 益々高まっている。
この授業では, 国際私法, 国際民事訴訟法の究極の応用問題ともいえる, 国際商事仲裁なる存在に焦点を絞り, そこにおける法的諸問題を分析することによって, 国際私法, 国際民事訴訟法の知見を深めていくことを目的とする。
Two companies from different countries conclude an international transaction, and a dispute occurs as a result. Under the existing international civil litigation scheme that uses a national court to resolve disputes, first, a dispute will occur regarding which country's court should resolve the corresponding dispute, and in many cases an efficient dispute resolution is uncertain. Now what if we were to resolve the dispute without using the court of either country or even resolve the dispute without using a national court in the first place? The dispute resolution process that was born from that concept is called "international commercial arbitration." It has long been used in the world of international commercial transactions mainly in the US and Europe and is increasing in importance.
This course aims to focus on international commercial arbitration, which is an extreme application of the Conflict of Laws and International Civil Procedure Law,　deepening the students' knowledge of Conflict of Laws and International Civil Procedure Law by analyzing the legal problems that occur there.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:国際商事仲裁の基本構造
【3】:手続の流れ
【4】:仲裁合意①
【5】:仲裁合意②
【6】:仲裁人の選定①
【7】:仲裁人の選定②
【8】:仲裁手続①

【9】:仲裁手続②
【10】:仲裁手続③
【11】:仲裁判断①
【12】:仲裁判断②
【13】:仲裁判断の取消し
【14】:仲裁判断の承認執行

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回出される課題に対して次回までレポート等をしっかりと作成する。
授業内で指摘された問題につき改善する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 平常時の受講態度:40% 中間レポート:20% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

講義の中で指定する

参考文献 / Readings

講義の中で指定する

作成:2024/10/02
科目コード:ND125

刑法研究

Criminal Law 1
ドイツ語圏の「家族と刑法」

深町　晋也(FUKAMACHI SHINYA)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND125
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP5310
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

ドイツ・スイス・オーストリアにおける「家族と刑法」を巡る書籍及び論文を渉猟することで，社会における刑法のあり方を考察する。
In this course, we will examine the role of criminal law in society by reviewing books and articles on ″family and criminal law″ in Germany, Switzerland, and Austria.

授業の内容 / Course Contents

演習の前半では，ドイツにおける「家族と刑法」に関する著名な Habilitation である Edward Schramm, Ehe und Familie im Strafrecht 2011 を輪読する。
演習の後半では，スイス及びオーストリアにおける「家族と刑法」に関連する論文を輪読する。
In the first half of the exercise, we will read Edward Schramm's ″Ehe und Familie im Strafrecht″, a well-known Habilitation on ″Family and Criminal Law″ in Germany.
In the second half of the seminar, we will read articles related to ″family and criminal law″ in Switzerland and Austria.

授業計画 / Course Schedule

【1】:Schramm の輪読(1)
【2】:Schramm の輪読(2)
【3】:Schramm の輪読(3)
【4】:Schramm の輪読(4)
【5】:Schramm の輪読(5)
【6】:Schramm の輪読(6)
【7】:Schramm の輪読(7)
【8】:スイスにおける「家族と刑法」(1)
【9】:スイスにおける「家族と刑法」(2)
【10】:スイスにおける「家族と刑法」(3)
【11】:スイスにおける「家族と刑法」(4)
【12】:オーストリアにおける「家族と刑法」(1)
【13】:オーストリアにおける「家族と刑法」(2)
【14】:オーストリアにおける「家族と刑法」(3)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	

個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

輪読形式であるため，各回の報告者のみならず参加者は全て事前に当該書籍・論文（いずれもドイツ語）を読み込んでおくことが求められる。
また，各回において書籍・論文を理解する上で前提となるドイツ・スイス・オーストリアの判例を読むことも予習内容として求められる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 報告:40% 質疑応答:30% 参加意欲・態度:30%

テキスト / Textbooks
参考文献 / Readings

演習中に指定する。

作成:2024/10/02
科目コード:ND128

刑事訴訟法特論

Criminal Procedure 2
田宮裕『刑事訴訟法』を読む

笹倉　宏紀(SASAKURA HIROKI)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND128
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP5310
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

田宮裕『刑事訴訟法〔新版〕』(有斐閣, 1996 年)の精読とその情報の更新作業を通じて, 田宮の刑事訴訟法理論の現代的意義を探究する。
Examining the contemporary significance of Hiroshi Tamiya's foundational contributions to Japan's law of criminal procedure and evidence through rigorous study of his seminal treatise and critical analysis of developments in the field since its publication.

授業の内容 / Course Contents

田宮裕(1933 年生・1999 年没)は「デュー・プロセスの旗手」として知られ, 1950 年代半ばから 20 世紀末までの我が国の刑事訴訟法学を牽引した文字どおりの第一人者であり, しかも, 立教大学法学部の「看板教授」であった。立教法は日本の法学界を代表する優秀な研究者が数多く集うことで知られるが, その過去・現在の在籍者のうちでも田宮が群を抜いて優れた法学者であったことは衆目の一致するところであろう。

田宮は多作の人であり, 夥しい数の業績を残したが, 中でも『刑事訴訟法〔新版〕』(有斐閣, 1996 年)は, 司法試験受験のための「基本書」として多くの学生に愛読された上, 今なお他の追随を許さない最高水準の体系書である。しかし, 残念ながら, 著者の没後, 一切改訂されておらず, もはや「教科書」としては使えなくなってしまっている。ところが, それにもかかわらず, 同書は, 刷を重ねて 2020 年代においてもなお読み継がれている。このことは, 同書が疑いなく名著であることの端的な証しである。

そこで, ほかならぬ立教大学の大学院で開設される本演習では, 同書を丹念に読みつつ, 同書刊行後四半世紀強の間の立法・判例・解釈論の展開を補う作業を行い, それを通じて, 田宮説の現代的意義を問うことにしたい。

履修者には, 全 14 回で同書を読み切るという授業進度を前提に, 毎回扱う箇所について, 刊行後今日に至るまでの四半世紀強の間に生じた立法・判例・解釈論の展開を事前に調査し, 同書のどの部分をどのように修正すれば現在でも通用する内容となるかを検討した上で, その結果をまとめたレポートを毎回作成し, 各回の授業で報告することを求める。毎回の予習・準備の負担はきわめて重いと予想されるので, それに堪える覚悟のある者のみが履修されたい。

Regarded as a "pioneer of due process rights," Hiroshi Tamiya (1933-1999) was an influential legal scholar who shaped Japan's law of criminal procedure and evidence from the mid-1950s through the end of the 20th century. As a distinguished faculty member at Rikkyo University's esteemed College of Law, Tamiya made significant contributions throughout his career. His seminal work "Criminal Procedure" (2nd edition) (Yuhikaku, 1996) remains an authoritative treatise of the highest quality even today, over more than two decades after the author's passing.

In this seminar, we will undertake a close examination of Tamiya's work while also tracing the legislative, judicial, and docrinal developments in this field over the 25 years since the book's publication. The goal is to evaluate the continued relevance and significance of Tamiya's contributions to modern law and practice of criminal procedure and evidence.

Over the course of 14 sessions, students will conduct preliminary research into legislative, judicial, and interpretive

changes since the book's release, which will help identify which aspects of the text require updating to retain currency and usefulness. Students will present the results of this research in a comprehensive report during each session of the seminar, and engage in a detailed discussion with the instructor and fellow students. The substantial preparatory work required for each session makes this seminar best suited to students willing to rigorously engage with the material.

授業計画 / Course Schedule

【1】:「履修にあたって求められる能力」(本シラバスの該当項参照)を有することを確認するための口頭試問，および，本演習全体の導入＝田宮刑訴法学の学説史上の位置づけについての概観
【2】:田宮刑訴の精読と情報の補充作業その 1
【3】:田宮刑訴の精読と情報の補充作業その 2
【4】:田宮刑訴の精読と情報の補充作業その 3
【5】:田宮刑訴の精読と情報の補充作業その 4
【6】:田宮刑訴の精読と情報の補充作業その 5
【7】:田宮刑訴の精読と情報の補充作業その 6
【8】:田宮刑訴の精読と情報の補充作業その 7
【9】:田宮刑訴の精読と情報の補充作業その 8
【10】:田宮刑訴の精読と情報の補充作業その 9
【11】:田宮刑訴の精読と情報の補充作業その 10
【12】:田宮刑訴の精読と情報の補充作業その 11
【13】:田宮刑訴の精読と情報の補充作業その 12
【14】:田宮刑訴の精読と情報の補充作業その 13

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の準備として，田宮刑訴の該当箇所を精読し，当該箇所を正確に理解することはもとより，当該箇所で扱われている事項について田宮刑訴の刊行後の立法や新たに現れた判例，学説を網羅的に調査し詳細なレポートを作成することを要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 平常点:100%
平常点は毎回のレポートおよび授業における発言等を総合的に勘案して評価する。

テキスト / Textbooks

田宮裕 刑事訴訟法(第 2 版) 有斐閣 1996 4641041520

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

1.本科目は「刑事訴訟法『特論』」であり，その目的・内容に照らして，法学部専門科目としての刑事訴訟法の知識・理解を十分に有することが履修の当然かつ最低限の前提である。より具体的に述べれば，本科目の履修に適するのは，学部で専門科目としての刑事訴訟法を履修し(もとより出身大学を問わないが，立教大学法学部の基準に照らして)S(あるいはせめて A)の成績を得た者である。学部段階で刑事訴訟法の単位を取得していない者，あるいは，単位取得済みであったとしても(立教大学法学部の基準で)評語が B・C であった者には本科目は不適である。
2. 初回の授業では，本科目が想定する学力を有するか否かを確認するための口頭試問を行い，有すると判定された者のみ履修を許可する。学部段階で刑事訴訟法の単位未取得の者，あるいは履修したが B・C の成績しか得られなかった者についても，口頭試問で要求水準を満たす学力を有することが確認された場合には，例外的に履修を許可する。
3.「授業の内容」の項で述べたとおり，毎回の負担はかなり重いと想定されるので，それに堪え得る客観的見込みと主観的意欲のある者のみが履修されたい。

その他 / Others

次の事由が通算で 3 回に達した場合は，その時点で単位不認定とし，履修の継続を許さない。
(1)無断のまたは正当な理由のない欠席
(2)無断のまたは正当な理由のない 30 分以上の遅刻
(3)無断のまたは正当な理由のないレポート課題の懈怠
注 授業前日午後 5 時までに連絡のない場合を「無断」とする。ただし，その後に生じた合理的に予期し得ない事態に起

因する場合（例＝授業当日朝に風邪様症状を発症し発熱したとき，公共交通機関で大学に向かう途中に豪雨による運転見合わせに遭遇したとき等）は，当該事態が生じた後，可能な限度で速やかに連絡すれば「無断」とはしない。「正当な理由」に当たるか否かは大学の規則・規程および社会通念に照らして判断する。

作成:2024/10/02
科目コード:ND130

憲法特論

Constitutional Law 2
憲法学の主要問題の検討

原田　一明(HARADA KAZUAKI)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND130
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP5110
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

統治機構や人権論などの憲法学をめぐる現代的な諸問題について、各種の文献を講読することで、日本国憲法の解釈論のあり方を精査することを目標とする。具体的テーマとしては、あくまでも一例ではあるが、例えば、議会制度をめぐる理論と実際、戦後史における憲法問題の再検討(安保国会から現在まで)、立憲主義に関する比較憲法的検討、象徴天皇制度のあり方などが挙げられる。
The objective of this course is to carefully investigate the state of the interpretive theory of the Constitution of Japan by reading various documents about contemporary problems surrounding Constitutional Law such as government organizations and human rights. While the following are merely examples, specific topics might include, for example, the theory and practice regarding the parliamentary system, a re-examination of constitutional problems in postwar history (from the security treaty Diet to the present), a Comparative Constitutional Law examination of constitutionalism, and the state of the system of symbolic monarchy.

授業の内容 / Course Contents

受講者との文献講読や受講者による報告に対する質疑を中心に、演習形式で講義を行う。講義の具体的内容については、第 1 回目の講義の際に決定するので、受講者は、必ず第 1 回目の講義に出席すること。
The lectures will be carried out in a seminar format focusing on a reading of the literature with the students and students asking questions about report presentations. The specific lecture contents will be decided during the first lecture, so students should be sure to attend that lecture.

授業計画 / Course Schedule

【1】:受講者との打ち合わせ
【2】:文献の講読(1)
【3】:文献の講読(2)
【4】:文献の講読(3)
【5】:文献の講読(4)
【6】:文献の講読(5)
【7】:文献の講読(6)
【8】:文献の講読(7)
【9】:文献の講読(8)
【10】:文献の講読(9)
【11】:文献の講読(10)
【12】:受講生による報告(1)
【13】:受講生による報告(2)

【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

初回の講義後、適宜次週の講義に向けての課題を指示するので、指定された文献を熟読し、その要約を作成し、さらには関連する論点についての検討を行うなど、事前に十分に予習して講義に臨むことが必要である。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業の出席態度:30% 授業時の報告や発言内容:70%

テキスト / Textbooks

受講者と相談のうえ、講読する文献を選択したい。

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:ND131

行政法研究

Administrative Law 1
行政法の基礎概念の探求

松戸　浩(MATSUDO HIROSHI)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND131
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP5110
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

行政法学は他の法分野と同様、歴史的に形成されてきた解釈論をその要素とする。もっとも行政法学は歴史的文献の探求学には留まらず、現代社会に生起する行政に係る問題と対峙する、その意味で同時代的な学問分野でもある。本授業では行政法学における様々な法的課題について、解釈論の形成も視野に入れつつ、判例におけるその現実具体的な発現を検討することにより、研究実務において必要な基礎的能力の涵養を図ることをその目的とする。
The administrative law assumes the interpretation theory that has been formed historically the element like the field of other law. It is the discipline where it is in this sense at the same period that the administrative law remains in the search studies of historic documents least, and confronts a problem to modify administration to occur in the modern society. In planning cultivation of the underlying ability that is necessary in the study business by considering by the reality concreteness-like expression in the precedent while considering the formation of the interpretation theory about various legal problems in the administrative law by this class; is intended.

授業の内容 / Course Contents

行政法総論及び救済法における個別的テーマを取り上げて、当該テーマに係る学説状況や判例を検討していく。その際には古典的文献も精読することにより、現代の解釈論の背景も学んでいく。具体的なテーマは受講生の希望を聴いたうえで決定する。
We take up the administrative law general remarks and the individual theme in the help and examine the theory situation and a precedent to affect the theme concerned. We learn the background of the modern interpretation theory on this occasion by reading the classic documents carefully. The concrete theme is decided after listening to student requests.

授業計画 / Course Schedule

【1】:ガイダンス・取り上げるテーマの選定
【2】:個別のテーマの検討
【3】:個別のテーマの検討
【4】:個別のテーマの検討
【5】:個別のテーマの検討
【6】:個別のテーマの検討
【7】:個別のテーマの検討
【8】:個別のテーマの検討
【9】:個別のテーマの検討
【10】:個別のテーマの検討
【11】:個別のテーマの検討

【12】:研究論文の取りまとめ
【13】:研究論文の取りまとめ
【14】:総括的討論・まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回のテーマにつき文献や判例を予め検討しておくと共に、報告を担当する場合には入念に準備をすること

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 報告:50% 授業中の発言・取り組み:50%

テキスト / Textbooks

取り上げる文献は適宜指示する。その他憲法や行政法の概説書は各自で用意しておくこと。

参考文献 / Readings

藤田宙靖『新版行政法総論上』青林書院 2020 9784417017844
藤田宙靖『新版行政法総論下』青林書院 2020 9784417017851
田中二郎『行政法総論』有斐閣 1957 4641903697
美濃部達吉『日本行政法上巻』有斐閣 1940
美濃部達吉『日本行政法下巻』有斐閣 1940
塩野宏『行政法Ⅰ第6版』有斐閣 2015 9784641131866
塩野宏『行政法Ⅱ第6版』有斐閣 2019 9784641227712

その他 / Others

具体的な内容は受講者の希望を踏まえて決定する。公法学専攻以外の者で履修を迷っている方は事前に相談されたい。

行政法特論

Administrative Law 2
規制行政の法的諸問題

神橋　一彦(KANBASHI KAZUHIKO)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND132
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP5110
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

行政法の分野においては、近年、注目すべき最高裁判例が数多く出されている。その中には、憲法訴訟に関係するものも少なくない。この演習では、憲法や行政法に関する基本的事項を確認した上で、近年の最高裁判例やそれに関係する問題について検討する。そのことにより、行政法全体に対する理解を深めるとともに、行政法に関係する問題を考察する能力を養成する。

In the field of administrative law, a number of noteworthy Supreme Court decisions have been issued in recent years. Many of these cases are related to constitutional litigation. In this class, after confirming the basic matters regarding the Constitution and administrative law, we will examine recent Supreme Court precedents and related issues. By doing so, students will deepen their understanding of administrative law as a whole and develop the ability to consider issues related to administrative law.

授業の内容 / Course Contents

行政法に関する近年の最高裁判例や関連する学説について、毎回、受講生が予め調べ、それを基にして討論する。取り上げる論点については、受講生と相談して決める。

In each class, students research in advance about recent Supreme Court precedents and related academic theories regarding administrative law, and discuss them based on that research. The points to be discussed will be determined in consultation with the students.

授業計画 / Course Schedule

【1】:ガイダンス・取り上げる論点などの確認
【2】:近時の最高裁判例・学説の検討
【3】:近時の最高裁判例・学説の検討
【4】:近時の最高裁判例・学説の検討
【5】:近時の最高裁判例・学説の検討
【6】:近時の最高裁判例・学説の検討
【7】:近時の最高裁判例・学説の検討
【8】:近時の最高裁判例・学説の検討
【9】:近時の最高裁判例・学説の検討
【10】:近時の最高裁判例・学説の検討
【11】:近時の最高裁判例・学説の検討
【12】:近時の最高裁判例・学説の検討
【13】:近時の最高裁判例・学説の検討
【14】:総括的討論・まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各回指定した文献や判例を検討し、割り当てられた報告については周到な準備を行うこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 報告:30% 授業中の発言・取組み:70%

テキスト / Textbooks

とりあげる文献・判例は配布する。憲法や行政法の標準的な教科書は必ず用意すること。

参考文献 / Readings

塩野宏 『行政法1 行政法総論 第6版 』 有斐閣 2015 9784641131866
塩野宏 『行政法Ⅱ 行政救済法 第6版』 有斐閣 2019 9784641227712
藤田宙靖 『[新版]行政法総論 上・下』 青林書院 2020 9784417017844
宇賀克也 『行政法概説Ⅰ 行政法総論〔第8版〕』 有斐閣 2023 9784641228535
宇賀克也 『行政法概説Ⅱ〔第7版〕』 有斐閣 2021 9784641228030
宇賀克也 『行政法概説Ⅲ〔第5版〕』 有斐閣 2019 9784641126053
神橋一彦 『行政救済法(第3版)』 信山社 2023 9784797280364
研究雑誌「行政法研究」(信山社)所掲の論文など。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

行政法に関する基本的な知識を有していること。

その他 / Others

行政法以外の分野を研究対象としている学生については、授業内容について適宜相談に応ずる。

作成:2024/10/02
科目コード:ND136

経済法特論

Economic Law 2

早川　雄一郎(HAYAKAWA YUICHIRO)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND136
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP5410
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

デジタルプラットフォームをめぐる競争法及び消費者法上の問題を理解する。
The objective of this course is to learn the competition and consumer law issues surrounding digital platforms.

授業の内容 / Course Contents

昨今、デジタルプラットフォームが引き起こす競争上及び消費者保護上の問題にどのように対処するかをめぐって、世界の多くの国で議論されている。デジタルプラットフォームをめぐる問題の理論的基礎は、世界の多くの国で共通する。そこで、本講義では、オーストラリアの規制当局であるオーストラリア競争消費者委員会が公表した報告書の講読・検討を通じて、デジタルプラットフォームの企業戦略と競争・消費者保護上の問題を理解する。
なお、取り上げる文献は受講生の関心に応じて変更することがある。
In recent years, there has been much debate in many countries around the world over how to deal with the competitive and consumer protection issues raised by digital platforms. The theoretical foundations of the issues surrounding digital platforms are common to many countries around the world. In this lecture, therefore, we aim to understand the business strategies and competition and consumer protection issues of digital platforms through reading and reviewing a report published by the Australian Competition and Consumer Commission, the Australian regulatory authority.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション
【2】:文献講読:担当者による報告と討論
【3】:文献講読:担当者による報告と討論
【4】:文献講読:担当者による報告と討論
【5】:文献講読:担当者による報告と討論
【6】:文献講読:担当者による報告と討論
【7】:文献講読:担当者による報告と討論
【8】:文献講読:担当者による報告と討論
【9】:文献講読:担当者による報告と討論
【10】:文献講読:担当者による報告と討論
【11】:文献講読:担当者による報告と討論
【12】:文献講読:担当者による報告と討論
【13】:文献講読:担当者による報告と討論
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

テキストの指定箇所の要約を毎回事前に作成する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 報告内容:50% 講義への参加度:50%

テキスト / Textbooks
参考文献 / Readings

Australian Competition and Consumer Commission, Digital Platform Services Inquiry Interim Report 7: Report on Expanding Ecosystems of digital Platform Services Providers (Sep. 2023)(下記サイトにある pdf ファイル)
https://www.accc.gov.au/about-us/publications/serial-publications/digital-platform-services-inquiry-2020-2025/digital-platform-services-inquiry-september-2023-interim-report

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

海外の当局の報告書を読める程度の英文読解力を有すること。

作成:2024/10/02
科目コード:ND137

法社会学研究

Sociology of Law 1

佐伯　昌彦(SAEKI MASAHIKO)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND137
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP5010
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

法社会学に関する基礎的な研究について大まかな知識を獲得するとともに，実証的な観点から法的問題を考える視点を獲得する。さらに，そのような実証的な研究を大まかにでも構想する能力の獲得を目指す。

It aims at acquiring basic understandings of empirical legal research and the perspectives to analyze legal issues. Also, it aims at learning how to make a rough design on empirical legal research.

授業の内容 / Course Contents

法現象を解明することを試みた実証研究のうち特に重要なものを取り上げて講読する。講読の対象となる論文は，主として英語で発表されたものを用いる．対象論文について要約し，疑問点や議論すべきポイントをまとめたレジュメを学生に用意してもらい，それに基づく討論を行う。講読する文献は，初回にリストとして提示するが，学生の関心に即して必要に応じて調整する。また，それらの論文を参考にしながら，大まかな研究計画を構想してもらう。

This course requires students to read essential research articles which explore legal phenomena empirically. Those articles are written in English. Students are required to make a summary of each article and to identify the points to be questioned or to be discussed. Based on that report, we will have a discussion. The list of articles to be read will be shown on the first day of the course, although there is room to modify the list depending on the interests of students. Lastly, students are required to present a rough research design.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション
【2】:文献講読
【3】:文献講読
【4】:文献講読
【5】:文献講読
【6】:文献講読
【7】:文献講読
【8】:文献講読
【9】:文献講読
【10】:文献講読
【11】:文献講読
【12】:文献講読
【13】:文献講読
【14】:研究構想の報告

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

事前に文献を読み，その概要，疑問点，議論すべきと考える点をまとめてくる。疑問点や議論すべき点をまとめるにあたっては、指定された文献だけではなく、それと関連する必要と思われる文献についても収集し、それらについても読み込んでくることが求められる。また，それらの研究を参考にしながら，自分の関心のある問題についてどのような研究が可能かを考えてもらい、その内容を最終回に報告してもらう。したがって、文献講読と並行して、自身の関心のある問題に関連する文献や、調査方法に関する文献を読み進めることが求められる(調査方法に関する文献については、適宜履修者の問題関心を踏まえながら候補を提示する)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ :100%
平常点割合 :100% 授業中の貢献度:80% 最終回での報告:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:ND139

環境法研究

Environmental Law 1
法学を通してみる環境問題

小澤　久仁男(OZAWA KUNIO)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND139
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP5510
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

今日、環境問題は、世界各地で起きており、我々の生命・身体に大きな影響を及ぼすことが珍しくありません。そこで、本授業においては、どのような環境問題が起きており、そして、それを法学を通して、どのような解決策が講じられているのかを、受講生と探求していきたいと思います。
また、本授業においては、様々な法律学を専攻している学生の履修を想定しています。そのため、ご自身の分野や論文執筆に役立つよう配慮できるようにしていきたいと思っています。
Today, environmental problems are occurring all over the world, and it is not uncommon for them to have a significant impact on our lives and bodies. In this class, we will explore with students what kind of environmental problems are occurring and how they can be solved through law.
This class is intended for students majoring in various fields of law. Therefore, I will try to take into consideration the usefulness of this course for your own field of study and for your dissertation writing.

授業の内容 / Course Contents

環境問題にアプローチをする文献を、2 回～3 回に分けて精読し、その都度、担当者および受講生との間で議論を行っていきます。これによって、受講生の関心がある環境問題と、受講生が専攻している分野を架橋していきたいと考えています。なお、検討の対象とする具体的な分野については、受講生の希望を聞いて決めたいと思います。
The course will be divided into two or three sessions of close reading of literature approaching environmental issues, and discussions will be held between the instructor and the students each time. In this way, we hope to bridge the students' interests in environmental issues with their major field of study.The specific fields to be examined will be determined by listening to the wishes of the students.

授業計画 / Course Schedule

【1】:ガイダンス・取り上げる論点などの確認
【2】:個別のテーマの検討
【3】:個別のテーマの検討
【4】:個別のテーマの検討
【5】:個別のテーマの検討
【6】:個別のテーマの検討
【7】:個別のテーマの検討
【8】:個別のテーマの検討
【9】:個別のテーマの検討
【10】:個別のテーマの検討
【11】:個別のテーマの検討

【12】:研究論文の取りまとめ(1)
【13】:研究論文の取りまとめ(2)
【14】:総括的討論・まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

取り上げる文献に目を通しておくと共に、少しでも疑問に思った場合は積極的に発言をしてください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業中の発言・取組み:70% 報告:30%

テキスト / Textbooks

授業中に適宜指示いたします。

参考文献 / Readings

大塚直 『環境法(第 4 版)』 有斐閣 2020 9784641137905
大塚直 『環境法 BASIC(第 4 版)』 有斐閣 2023 9784641233126
北村喜宣 『環境法(第 6 版)』 弘文堂 2023 9784335359460

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

本授業は主に環境問題を取り上げていくことになり、各履修者の専攻と乖離する場合があります。けれども、直接、自己の専攻や関心に関係が無くても、どこかで関連する可能性があります。そのため、ご自身の専攻に少しでも引きつけられるように、積極的に発言をして貰えたらと思います。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特にありません。

その他 / Others

担当教員は他大学の所属となり、本授業については今年度開講されたものとなります。そのため、至らない点が出てきてしまうことがあるかもしれませんが、少しでも受講生の専攻に応えられるよう努めていきたいと思っています。

作成:2024/10/02
科目コード:ND142

租税法特論

Tax Law 2
BEPS(base erosion & profit shifting)対策と digital economy taxation

浅妻　章如(ASATSUMA AKIYUKI)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND142
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP5110
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

OECD/G20 を中心に議論されている BEPS 対策を理解する。Pillar One, Pillar Two についての勉強が中心となるが、そこに含まれていない国際租税法の課題も勉強する。
We will learn OECD/G20's anti-BEPS discussion. We will study Pillar One and Pillar Two intensively, but we will also study other international tax issues.

授業の内容 / Course Contents

OECD/G20 を中心に議論されている BEPS 対策の報告書や、関連する文献を、読み込んでいきます。恐らく、シラバス執筆後にも重要な報告書や文献が出てくると予想されますので、随時、取り上げていく予定です。また、受講生の希望する文献を扱う可能性もあります。欧州で最低法人税や shell 会社対策の報告書も出されていますので、受講生の希望次第で、欧州の報告書を取り上げる可能性もあります。デジタル経済についての課税の方法についても、近年、OECD/G20 や EU に限らず、活発に議論されているので、取り上げる可能性もあります。国際課税に限らず、Maryland State's Digital Advertising Tax のような地方税の話題を取り上げる可能性もあります。
We will study OECD/G20's anti-BEPS reports and other related materials. It is anticipated that important reports or other material will be published after this syllabus, so we will try those things. It is also possible to choice the material which is recommended by students. It is also possible to study minimum corporate income tax and UNSHELL legislation reported by European Union. It is also possible to study digital economy taxation issues because those matters are recently discussed, not only in OECD/G20 and European Union. It is also possible to study, not only international taxation, but also local tax, such as Maryland State's Digital Advertising Tax.

授業計画 / Course Schedule

【1】:OECD (2023), Tax Challenges Arising from the Digitalisation of the Economy - Administrative Guidance on the Global Anti-Base Erosion Model Rules (Pillar Two), December 2023, OECD/G20 Inclusive Framework on BEPS, OECD, Paris, http://www.oecd.org/tax/beps/administrative-guidance-global-antibase-erosion-rules-pillar-two-december-2023.pdf
【2】:同上
【3】:同上
【4】:同上
【5】:International tax reform: Multilateral Convention to Implement Amount A of Pillar One
https://www.oecd.org/tax/beps/multilateral-convention-to-implement-amount-a-of-pillar-one.htm
【6】:同上
【7】:同上
【8】:Action 1: Addressing the Tax Challenges of the Digital Economy

【9】:Action 2: Neutralising the Effects of Hybrid Mismatch Arrangements
【10】:Action 5: Countering Harmful Tax Practices More Effectively, Taking into Account Transparency and Substance
【11】:Action 6: Preventing the Granting of Treaty Benefits in Inappropriate Circumstances
【12】:Action 7: Preventing the Artificial Avoidance of Permanent Establishment Status
【13】:Actions 8-10: Aligning Transfer Pricing Outcomes with Value Creation
【14】:同上

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各回の参考文献を指定しますので読み込んできてください。
また、中里実他『租税法概説 4 版』(有斐閣、2021)または増井良啓・宮崎裕子『国際租税法 4 版』(東京大学出版会、2019)レベルの予習はしておいてください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 報告内容:50% 議論への貢献:50%

テキスト / Textbooks
参考文献 / Readings

中里実他 『租税法概説 4 版』 有斐閣 2021 9784641228191
増井良啓・宮崎裕子 『国際租税法 4 版』 東京大学出版会 2019 9784130323932

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

民法商法行政法といった七法科目を履修済みであることを想定する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

租税法の条文はポケット六法等に載っていないので PC を持参することが望ましい。

その他 / Others

http://www2.rikkyo.ac.jp/web/asatsuma/

作成:2024/10/02
科目コード:ND143

民法特論　C

Civil Law C2
ドイツ物権法を学ぶ

原田　昌和(HARADA MASAKAZU)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND143
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP5210
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	学部科目 EX866「演習」と合同授業		

授業の目標 / Course Objectives

ドイツ物権法についての基本的文献を読む。
The objective of this class is to read a basic literature on German Property Law.

授業の内容 / Course Contents

日本語訳されたドイツ物権法に関する教科書を講読する。担当者は、担当部分のレジュメを事前に用意し、当日は、それに基づいて内容を検討する。他の参加者は適宜質問をし、共同で議論を行う。
Students will read a textbook on German Property Law translated into Japanese. The student in charge will prepare a resume in advance and review the contents based on it on the day of the class. The other participants will ask questions as appropriate and discuss jointly.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション、担当者決定
【2】:文献講読1
【3】:文献講読2
【4】:文献講読3
【5】:文献講読4
【6】:文献講読5
【7】:文献講読6
【8】:文献講読7
【9】:文献講読8
【10】:文献講読9
【11】:文献講読10
【12】:文献講読11
【13】:文献講読12
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

文献講読は、必ず事前に、その日の該当部分を通読してくること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 報告内容:50% 討論内容:50%
全ての評価方法において合同授業を履修する学部生よりも高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

ヴォルフ／ヴェレンホーファー著(大場浩之他訳)『ドイツ物権法』成文堂 2016 9784792326968

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:ND161

法学政治学特別リサーチ

Special Topics in Law and Politics
登記等の実務から学ぶ民法・会社法
～近時、頻繁になされる法令等の改正も網羅～

鈴木　龍介(SUZUKI RYUSUKE)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND161
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP5910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	学部科目 EX856「演習」と合同授業		

授業の目標 / Course Objectives

登記等の実務をマスターすることで、民法・会社法についての理解を深めるとともに、実務現場における実践的な力を養うことを目指す。
By mastering business such as registration, students deepen their understanding of the Civil Code and the Companies Act, and aim to cultivate practical skills in the workplace.
* The latest version of The Six Codes Companion.

授業の内容 / Course Contents

各授業(第2回目～／なお、報告者の希望等によりテーマを変更する場合あり)について、受講生のうち1名(報告担当者)を割り当て、以下のとおり各回の授業を進めることとする。
①報告担当者において当該項目に関する報告書を作成(授業前に配信)
②報告担当者において授業で報告
③受講生間において質疑・意見交換
④講師において実務資料等の提供と報告に対するフォローアップ
なお、報告書については、該当する法令を踏まえたうえで制度の趣旨等をまとめたものを想定している。
Starting from the second session, one student will be assigned in each class (in charge of presenting a report), and the classes during each session will be conducted as follows.
(1) The student presenters will prepare a report about the relevant topic (disseminated before class)
(2) The student presenters will present their reports in class
(3) The students will ask questions and exchange their opinions
(4) The lecturer will supplement the reports and provide documentation, etc.
Furthermore, the reports are expected to be based on the corresponding laws and summarize a general outline of the system (no restrictions on length or format).

授業計画 / Course Schedule

【1】:ガイダンス／民法・会社法総論
講師から本授業の目的や進め方について具体的に説明する(担当者の決定を含む)。
講師から民法・会社法のアウトラインについて講義をする。
【2】:能力(成年後見を含む)
自然人の能力に関する諸論点についてディスカッションする。
講師からは成年後見の実務についてフォローをする。
【3】:法人(一般社団・財団法人を含む)

法人制度に関する諸論点についてディスカッションする。
講師からは一般社団・財団法人の実務についてフォローをする。
【4】:不動産登記
不動産物権変動の対抗要件である不動産登記に関する諸論点についてディスカッションする。
講師からは不動産登記の実務についてフォローをする。
【5】:抵当権・根抵当権
抵当権・根抵当権に関する諸論点についてディスカッションする。
講師からは抵当権・根抵当の実務についてフォローをする。
【6】:動産・債権譲渡(譲渡担保を含む)
動産・債権譲渡に関する諸論点についてディスカッションする。
講師からは動産・債権譲渡登記の実務についてフォローをする。
【7】:保証
保証に関する諸論点についてディスカッションする。
講師からは保証の実務についてフォローをする。
【8】:売買契約
売買契約に関する諸論点についてディスカッションする。
講師からは売買契約(書)の実務についてフォローをする。
【9】:株式
株式に関する諸論点についてディスカッションする。
講師からは株式の実務についてフォローをする。
【10】:株主総会
株主総会に関する諸論点についてディスカッションする。
講師からは株主総会の実務についてフォローをする。
【11】:役員等
株式会社の役員等に関する諸論点についてディスカッションする。
講師からは役員変更登記の実務についてフォローをする。
【12】:資金調達
資金調達(募集株式の発行等)に関する諸論点についてディスカッションする。
講師からは会社の資金調達の実務についてフォローをする。
【13】:相続①:遺産分割
遺産分割に関する諸論点についてディスカッションする。
講師からは遺産分割の実務についてフォローをする。
【14】:相続②:遺言
遺言に関する諸論点についてディスカッションする。
講師からは遺言の実務(法務局保管制度を含む)についてフォローをする。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習:報告書の作成(授業の3日前までに配信)ー報告書のチェック
復習:関連条文や判例等のチェック

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 担当した報告書の内容(含む授業での報告):60% 授業での発言:40%
全ての評価方法において合同授業を履修する学部生よりも高度な達成水準を要求する。なお、授業に2／3以上の出席がない場合には、成績評価の対象としない。

テキスト / Textbooks
参考文献 / Readings

遠藤浩・良永和隆編 『別冊法学セミナー№215 基本法コンメンタール 民法総則(第6版)』 日本評論社 2012
9784535402508
鎌田薫・松岡久和・松尾弘編 『別冊法学セミナー№262 新基本法コンメンタール 物権』 日本評論社 2020
9784535402621

鎌田薫・松本恒雄・野澤正充編『別冊法学セミナー№266　新基本法コンメンタール　債権1』日本評論社　2021　9784535402638
鎌田薫・潮見佳男・渡辺達徳編『別冊法学セミナー№264　新基本法コンメンタール　債権2』日本評論社　2020　9784535402645
松川正毅・窪田充見編『別冊法学セミナー№261　新基本法コンメンタール　親族（第2版）』日本評論社　2019　9784535402782
松川正毅・窪田充見編『別冊法学セミナー№271　新基本法コンメンタール　相続（第2版）』日本評論社　2023　9784535402799
奥島孝康・落合誠一・浜田道代編『別冊法学セミナー№242 新基本法コンメンタール　会社法1（第2版）』日本評論社　2016　9784535402690
⑧ 奥島孝康・落合誠一・浜田道代編
『別冊法学セミナー№243 新基本法コンメンタール　会社法2（第2版）』
日本評論社　2016 年　ISBN 978-4-535-40270-6
⑨ 奥島孝康・落合誠一・浜田道代編
『別冊法学セミナー№239 新基本法コンメンタール　会社法3（第2版）』
日本評論社　2015 年　ISBN 978-4-535-40271-3
⑩ 潮見佳男・道垣内弘人編
『別冊ジュリスト 262 号　民法判例百選Ⅰ　総則・物権（第9版）』
有斐閣　2023 年　ISBN 978-4-641-11562-0
⑪ 窪田充見・森田宏樹編
『別冊ジュリスト 263 号　民法判例百選Ⅱ　債権（第9版）』
有斐閣　2023 年　ISBN 978-4-641-11563-7
⑫ 大村敦志・沖野眞已編
『別冊ジュリスト 264 号　民法判例百選Ⅲ　親族・相続（第3版）』
有斐閣　2023 年　ISBN 978-4-641-11564-4
⑬ 神作裕之・藤田友敬・加藤貴仁編
『別冊ジュリスト 254 号　会社法判例百選（第4版）』
有斐閣　2021 年　ISBN 978-4-641-11554-5
⑭ 池田真朗編
『民法　Visual　Materials（第3版）』
有斐閣　2021 年　ISBN 978-4-641-13857-5
⑮ 落合誠一編
『会社法　Visual　Materials』
有斐閣　2011 年　ISBN 978-4-641-13606-9
⑯ 鈴木龍介編著
『登記法入門－実務の道しるべ』
商事法務　2021 年　ISBN 978-4-7857-2869-4

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

民法・会社法の基礎知識を有していること

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

最新の六法必携（デジタル可）

作成:2024/10/02
科目コード:ND164

法学政治学特別リサーチ

Special Topics in Law and Politics
ドイツ語法律文献講読

神橋　一彦(KANBASHI KAZUHIKO)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND164
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP5910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	学部科目 EX717「法政外国語演習<ドイツ語>」と合同授業		

授業の目標 / Course Objectives

ドイツの憲法や政治に関する文献を講読し、ドイツ語の基本的読解力を養成するとともに、法治主義、民主主義、国民主権など、法と政治の本質について考えることにより、研究的視点の基礎を涵養する。
The purpose of this class is to cultivate basic reading comprehension in German by reading literature on the German constitution and politics. At the same time, we will consider the fundamental issues of law and politics, such as the rule of law, democracy, and sovereignty of the people
.

授業の内容 / Course Contents

各自、テキストを事前に読んできてもらい、予め決められた受講生が分担部分について訳す。内容や文法について授業担当者が解説するとともに、参加者全員で内容について議論を行う。読む分量は、毎回1～2 頁と多くはないが、初級文法をベースに文章を正確に理解する能力の養成を目指す。
This course requires each student to read the text in advance, and a predetermined student translates the assignment. The instructor explains the contents and grammar, and all participants discuss the contents. The readings are not long, 1-2 pages each, but the aim is to develop the ability to understand sentences accurately based on elementary grammar.

授業計画 / Course Schedule

【1】:ガイダンス
【2】:ドイツ語文献講読
【3】:ドイツ語文献講読
【4】:ドイツ語文献講読
【5】:ドイツ語文献講読
【6】:ドイツ語文献講読
【7】:ドイツ語文献講読
【8】:ドイツ語文献講読
【9】:ドイツ語文献講読
【10】:ドイツ語文献講読
【11】:ドイツ語文献講読
【12】:ドイツ語文献講読
【13】:ドイツ語文献講読
【14】:ドイツ語文献講読

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回扱う部分について、文法の知識を踏まえ、必ず事前に訳してくること。ドイツ憲法に関する背景的知識については、参考文献所掲の『ドイツ憲法集〔第 8 版〕』『〈ガイドブック〉ドイツの憲法判例〉』の説明が有益であるので、一読することが望ましい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 発表と授業への参加:100%
全ての評価方法において合同授業を履修する学部生よりも高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

テキストは比較的平易なものを予定している。
最終的には受講生の希望も勘案して決定する。

参考文献 / Readings

高田 敏ほか(編集，翻訳)『ドイツ憲法集〔第 8 版〕』 信山社 2020 9784797223705
初宿 正典 (著，翻訳)『ドイツ連邦共和国基本法―全訳と第 62 回改正までの全経過』 信山社 2018 9784797223590
初宿 正典ほか(編) 『新解説 世界憲法集 第5版』 三省堂 2020 9784385313115
鈴木 秀美 ほか(著，編集)『〈ガイドブック〉ドイツの憲法判例』 信山社 2020 9784560088074
ボード・ピエロートほか (著)『現代ドイツ基本権〔第 2 版〕』 法律文化社 2019 9784589039859
村上 淳一ほか (著)『ドイツ法入門 改訂第 9 版』 有斐閣 2018 9784641048225
中山 豊 『中級ドイツ文法(新装版)』 白水社 2018 9784560088074

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

ドイツ語の初級文法を学んでいること。

その他 / Others

履修に当たっては、ドイツ語の初級文法について一通り学習していることを要する。なお、内容等について質問があるときは、授業担当者まで問い合わせること(メールで事前連絡すること)。

作成:2024/10/02
科目コード:ND171

判例研究

Case Studies

高橋　美加／佐伯　昌彦(TAKAHASHI MIKA/ SAEKI MASAHIKO)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND171
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	2	科目ナンバリング	LAP6910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

各履修者の専攻分野についての判例を検討することを通じて、判例研究の手法を習得する。
The objective of this course is to learn the method behind Case Studies by examining judicial precedents in each student's major field of study.

授業の内容 / Course Contents

原則として、令和 5 年度に出された重要判例についての研究を行う。履修者には、報告したい判例を指導教員と相談の上で選択し、当該判例に関連する法分野を担当する本研究科所属の教員複数名出席のもとに、判例研究をしてもらう。評釈のうちのいくつかは、大学院紀要『法学研究』に掲載する予定である。

法学を専攻する大学院生は、特別の事情がない限り、この科目を履修すること。

As a general rule, students will research important judicial precedents released during the 2023 academic year. Students will consult with the advising faculty member to select the judicial precedent that they would like to report on and conduct Case Studies under the supervision of several faculty members affiliated with this graduate course who are in charge of the legal field related to the relevant judicial precedent. Several of the annotations are scheduled to be published in the "Journal of Law" graduate school journal.

Unless there are extenuating circumstances, graduate school students majoring in Law must take this course.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:受講者による判例研究報告及び全員での討論
【3】:受講者による判例研究報告及び全員での討論
【4】:受講者による判例研究報告及び全員での討論
【5】:受講者による判例研究報告及び全員での討論
【6】:受講者による判例研究報告及び全員での討論
【7】:受講者による判例研究報告及び全員での討論
【8】:受講者による判例研究報告及び全員での討論
【9】:受講者による判例研究報告及び全員での討論
【10】:受講者による判例研究報告及び全員での討論
【11】:受講者による判例研究報告及び全員での討論
【12】:受講者による判例研究報告及び全員での討論
【13】:受講者による判例研究報告及び全員での討論
【14】:受講者による判例研究報告及び全員での討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

検討対象の判例(訴訟経過を含む)、解説、評釈等を各自渉猟し、可能であれば、事前に履修者間で議論を行っておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 出席態度:50% 報告および討論の内容:50%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

必要があれば、授業中、その都度指示する。

その他 / Others

＜授業形態＞
演習形式の授業であり，担当者による報告の後，参加者全員によるディスカッションが行われる。
＜フィードバック＞
授業の各回に担当教員からフィードバックを行う。

作成:2024/10/02
科目コード:ND172

法学総合演習(1)

Legal Studies Workshop (1)

高橋　美加／佐伯　昌彦(TAKAHASHI MIKA/ SAEKI MASAHIKO)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND172
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	1	科目ナンバリング	LAP6910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	後期課程科目 TX101「法学総合演習(1)」と合同授業 法学専攻の学生は毎学期自動登録		

授業の目標 / Course Objectives

各履修者が目下取り組む研究テーマについて，他分野の教員，院生も含めた参加者の前で報告し，討論を通じて広い研究的視野を確立する。

This course aims for each student to present a report about a research topic they are currently pursuing to faculty members from other fields and participants including graduate students, in order to establish a broad research perspective through debate.

授業の内容 / Course Contents

毎回，履修者 1 名が，目下取り組む研究テーマについて報告し，それをもとに全員で討論する。この授業は，学生の研究がそれぞれの分野，領域で行われるよう，その刺激を与えることをその目的の一つとしている。したがって，毎回の授業には指導教員や履修者のみならず，可能であれば，他分野の教員も出席して，助言等がなされることが予定されている。履修者も，このような授業の目的，目標に鑑み，積極的に授業に参加することが求められる。

One student per meeting presents a report about the research topic s/he is currently pursuing, forming the basis for a debate among all students. Thus, the course aims to include students who are conducting research in various fields and areas, in order to stimulate others. Therefore, presentations are attended not only by the advising faculty member and students, but faculty members from other fields are also scheduled to attend to provide advice and suggestions, etc. In consideration of the course purpose and objectives, students are required to participate actively.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:受講者による研究報告に引き続き全員で討議
【3】:受講者による研究報告に引き続き全員で討議
【4】:受講者による研究報告に引き続き全員で討議
【5】:受講者による研究報告に引き続き全員で討議
【6】:受講者による研究報告に引き続き全員で討議
【7】:受講者による研究報告に引き続き全員で討議

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

研究報告のタイトルに関連する先行研究を各自が渉猟し、事前に十分に検討しておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 出席態度:50% 研究報告および議論の水準:50%

テキスト / Textbooks

とくに指定しない。

参考文献 / Readings

授業中その都度必要があれば指示する。

その他 / Others

＜授業形態＞
演習形式の授業であり，担当者による報告の後，参加者全員によるディスカッションが行われる。
＜フィードバック＞
授業の各回に担当教員からフィードバックを行う。

作成:2024/10/02
科目コード:ND173

法学総合演習(2)

Legal Studies Workshop (2)

高橋　美加／佐伯　昌彦(TAKAHASHI MIKA/ SAEKI MASAHIKO)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND173
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	1	科目ナンバリング	LAP6910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	後期課程科目 TX102「法学総合演習(2)」と合同授業 法学専攻の学生は毎学期自動登録		

授業の目標 / Course Objectives

各履修者が目下取り組む研究テーマについて，他分野の教員，院生も含めた参加者の前で報告し，討論を通じて広い研究的視野を確立する。

This course aims for each student to present a report about a research topic they are currently pursuing to faculty members from other fields and participants including graduate students, in order to establish a broad research perspective through debate.

授業の内容 / Course Contents

毎回，履修者 1 名が，目下取り組む研究テーマについて報告し，それをもとに全員で討論する。この授業は，学生の研究がそれぞれの分野，領域で行われるよう，その刺激を与えることをその目的の一つとしている。したがって，毎回の授業には指導教員や履修者のみならず，可能であれば，他分野の教員も出席して，助言等がなされることが予定されている。履修者も，このような授業の目的，目標に鑑み，積極的に授業に参加することが求められる。

One student per meeting presents a report about the research topic s/he is currently pursuing, forming the basis for a debate among all students. Thus, the course aims to include students who are conducting research in various fields and areas, in order to stimulate others. participants. Therefore, presentations are attended not only by the advising faculty member and students, but faculty members from other fields are also scheduled to attend to provide advice and suggestions, etc. In consideration of the course purpose and objectives, students are required to participate actively.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:受講者による研究報告に引き続き全員で討議
【3】:受講者による研究報告に引き続き全員で討議
【4】:受講者による研究報告に引き続き全員で討議
【5】:受講者による研究報告に引き続き全員で討議
【6】:受講者による研究報告に引き続き全員で討議
【7】:受講者による研究報告に引き続き全員で討議

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

研究報告のタイトルに関連する先行研究を各自が渉猟し、事前に十分に検討しておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 出席態度:50% 研究報告および議論の水準:50%

テキスト / Textbooks

とくに指定しない。

参考文献 / Readings

授業中その都度必要があれば指示する。

その他 / Others

＜授業形態＞
演習形式の授業であり，担当者による報告の後，参加者全員によるディスカッションが行われる。
＜フィードバック＞
授業の各回に担当教員からフィードバックを行う。

作成:2024/10/02
科目コード:ND202

政治学特論

Modern Political Theories 2
現代政治理論の諸問題

川崎　修(KAWASAKI OSAMU)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND202
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP5610
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

現代政治理論の諸問題について、とりわけ、リベラリズム、コミュニタリアニズム、ならびに多文化主義を巡る議論について概観する。
This course will treat on the main topics of contemporary political tought, especially the topics on liberalism, communitarianism, and multi-culturalism.

授業の内容 / Course Contents

ウィル・キムリッカ著(千葉眞・岡崎晴輝他訳)『新版　現代政治理論』、日本経済評論社、2005 年、を精読する。
また、必要に応じて、関連する文献を読む予定である。
Students will conduct a caraful reading of Japanese translation of Will Kymlicka's "Contemporary Political Philosophy : An Introduction, second edition", Oxford University Press, 2002.
Students will also read several other essays.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:『新版　現代政治理論』 序章
【3】:『新版　現代政治理論』 第二章　功利主義
【4】:『新版　現代政治理論』 第三章　リベラルな平等
【5】:『新版　現代政治理論』 第三章　リベラルな平等
【6】:『新版　現代政治理論』 第四章　リバタリアニズム
【7】:『新版　現代政治理論』 第五章　マルクス主義
【8】:『新版　現代政治理論』 第六章　コミュニタリアニズム
【9】:『新版　現代政治理論』 第六章　コミュニタリアニズム
【10】:『新版　現代政治理論』 第七章　シティズンシップ理論
【11】:『新版　現代政治理論』 第八章　多文化主義
【12】:『新版　現代政治理論』 第八章　多文化主義
【13】:『新版　現代政治理論』 第九章　フェミニズム
【14】:総括とふりかえり

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	

個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

報告者は報告の準備をすること。
報告者以外の参加者は当該箇所を必ず事前に読んでくること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 担当報告の内容:50% 平常の授業態度:50%

テキスト / Textbooks

W・キムリッカ『新版 現代政治理論』日本経済評論社 2005 9784818817708

参考文献 / Readings

この授業は、参加予定者の関心や参加人数に応じて、進め方やテクストを変更する場合があります。

作成:2024/10/02
科目コード:ND204

政治過程特論

Political Process 2
現代日本政治リサーチ

孫　斉庸(SOHN JEYONG)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND204
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP5610
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

現代日本政治に関する最新の研究成果を講読し、政治過程論の基本知識の習得を目指す。
The course aims to familiarize students with the latest research findings on contemporary Japanese politics and to provide them with a fundamental understanding of political processes.

授業の内容 / Course Contents

国内外の政治学ジャーナルに掲載された最近の論文を中心に、毎回二本の論文を講読していく。主に現代日本政治に関する論文を取り上げるが、受講生の関心分野に応じて、適宜文献の選定を行う。
受講生は、次回の授業で取り上げる文献を事前に読み、A4 サイズ一枚程度の講読メモを作成し、Canvas LMS を介して教員及び他の受講生と共有することが求められる。さらに、授業中のディスカッションに積極的に参加するため、他の受講生が作成した講読メモも事前に確認しておくことが望ましい。

Each session will focus on two recent articles published in domestic and international political science journals. While the course will primarily cover articles related to contemporary Japanese politics, the selection of literature will be tailored to the interests of the students. Students are expected to read the assigned articles prior to each session and prepare a one-page summary of their readings. These summaries should be shared with the instructor and other students via Canvas LMS. Additionally, students are encouraged to review the summaries prepared by their peers to facilitate active participation in class discussions.

授業計画 / Course Schedule

【1】:ガイダンス
【2】:文献講読(1)
【3】:文献講読(2)
【4】:文献講読(3)
【5】:文献講読(4)
【6】:文献講読(5)
【7】:文献講読(6)
【8】:文献講読(7)
【9】:文献講読(8)
【10】:文献講読(9)
【11】:文献講読(10)
【12】:文献講読(11)
【13】:文献講読(12)

【14】: 文献講読(13)・総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、履修登録後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業・討論への参加度:60% 講読メモ:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

参考文献に関する指示は、最終的に各回の文献が確定した後、履修者に対して行う。

作成:2024/10/02
科目コード:ND205

日本政治史研究

Political History of Japan 1
アジア主義概括

松浦　正孝(MATSUURA MASATAKA)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND205
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP5810
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

アジア主義に関する基礎的な研究を検討し、先行研究の蓄積を整理する。過去の研究をどう読みどう評価するかを経験する中で、参加者各自が自分の研究を先行研究との関係でどう位置付けるかを考える際の助けになることを目指す。
We will examine fundamental research on Asianism and organize the accumulation of previous research. The goal is to help participants consider how to position their own research in relation to previous research while experiencing how to read and evaluate past research.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、予め指定されたアジア主義に関する主要な先行業績を毎回一つずつ取り上げ議論する。報告者がその内容を要約すると共に批評し、アジア主義研究の中での位置付けを検討する。報告者以外の参加者は授業の前日までにそのテキストを読み、Canvas LMS の「ディスカッション」にコメントを二点以上書き込み、当日の議論の準備とする。報告者は当日の授業までに、レジメと、他の参加者からのコメントを印刷した配布物を用意し、当日の報告に臨む。
This class will cover one major prior work on Asianism each session, which will be assigned in advance. Each presenter will summarize and critique its contents and consider its position in the research of Asianism. Participants other than the presenter are to read the assigned text at least one day before the class and write at least two comments in the "Discussion" section of Canvas LMS to prepare for each session's discussion. Presenters are to prepare an outline and a handout with collating comments from other participants before the class on the day of the presentation.

授業計画 / Course Schedule

【1】:アジア主義研究に関するガイダンス
【2】:輪読 1
【3】:輪読 2
【4】:輪読 3
【5】:輪読 4
【6】:輪読 5
【7】:輪読 6
【8】:輪読 7
【9】:輪読 8
【10】:輪読 9
【11】:輪読 10
【12】:輪読 11
【13】:輪読 12
【14】:輪読 13　とまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

上述したように、報告者はテキストの要約。レビューを行い、それ以外の参加者は事前にテキストを読み、コメントをCanvas に書き込む。その際、テキスト以外の関連の文献などを参照することも奨励される。また、アジア主義というテーマだけなく、自分のテーマとの関連で、様々な角度からの議論を提示するよう準備することも期待される。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業における報告の内容:50% 授業での議論や参加態度など:50%

テキスト / Textbooks

嵯峨隆 『アジア主義全史』 筑摩書房 2020 9784480016997
山室信一 『アジアの思想史脈』 人文書院 2017 9784409520659
山室信一 『アジアびとの風姿』 人文書院 2017 9784409520666
山室信一 『思想課題としてのアジア 基軸・連鎖・投企』 岩波書店 2001 4000233491
翟新 『東亜同文会と中国』 慶應義塾大学出版会 2001 9784766408256
狭間直樹「初期アジア主義についての史的考察」『東亜』2001-2002、などは必読である。

参考文献 / Readings

趙軍 『中国における大アジア主義』 ミネルヴァ書房 2018 9784623083497
長谷川雄一 『アジア主義思想と現代』 慶應義塾大学出版会 2014 9784766421309
クリストファー・W・A・スピルマン 『近代日本の革新論とアジア主義――北一輝、大川周明、満川亀太郎らの思想と行動』 芦書房 2015 9784755612749
井上寿一 『増補 アジア主義を問いなおす』 筑摩書房 2016 9784480097583
松本健一 『竹内好「日本のアジア主義」精読』 岩波書店 2000 9784006000141
馬場毅 『近代日中関係史の中のアジア主義: 東亜同文会・東亜同文書院を中心に』 あるむ 2017 9784863331228
保城広至 『アジア地域主義外交の行方:1952-1966』 木鐸社 2008 9784833224062
テキストの候補は、上掲のテキスト・参考文献以外にも多くあるため、時間の制約や参加者との相談などを通じて、適宜加除の上取捨選択する。

作成:2024/10/02
科目コード:ND208

欧州政治思想史特論

History of European Political Thought 2
啓蒙研究の概説書を読む

安藤　裕介(ANDO YUSUKE)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND208
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP5810
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

18 世紀啓蒙研究の代表的な概説書を輪読し、「啓蒙」と呼ばれる時代あるいは文化・社会現象の多様性や複雑性について理解を深める。
In this course, students read through some representative overviews of 18th century Enlightenment studies to deepen their understanding of the diversity and complexity of the period or cultural and social phenomena known as the "Enlightenment".

授業の内容 / Course Contents

「啓蒙とは何か？」カントの著作のタイトルとともにあまりにも有名になったこの問いへの答えは、有名であるがゆえに啓蒙に対する私たちの理解を制約する契機にもなってきた。18 世紀の西洋世界で登場したとされるこの思想潮流には、実際、どのような思想の広がりや多様性、あるいは矛盾や論争的な要素が含まれていたのか。理性の重視や人類の進歩という単純な図式に還元されがちな啓蒙思想の豊かな内容について、優れた研究者が書いた代表的な概説書を参照しながら改めて考えてみたい。
"What is the Enlightenment?" The answer to this question, which has become so well-known with the title of Kant's book, is so well-known that it has become an occasion to constrain our understanding of the Enlightenment. In fact, what is the breadth and diversity of ideas in this current of thought that is said to have emerged in the Western world in the 18th century, and what are the contradictions and controversial elements it contained? In this course, we would like to consider again the richness of Enlightenment thought, which is often reduced to a simple picture of an emphasis on reason and human progress, by referring to representative overviews written by outstanding scholars.

授業計画 / Course Schedule

【1】:ガイダンス
【2】:ロバートソン『啓蒙とはなにか』(1)
【3】:ロバートソン『啓蒙とはなにか』(2)
【4】:ロバートソン『啓蒙とはなにか』(3)
【5】:ロバートソン『啓蒙とはなにか』(4)
【6】:ロバートソン『啓蒙とはなにか』(5)
【7】:ウートラム『啓蒙』(1)
【8】:ウートラム『啓蒙』(2)
【9】:ウートラム『啓蒙』(3)
【10】:ウートラム『啓蒙』(4)
【11】:ウートラム『啓蒙』(5)
【12】:関連分野の研究論文

【13】:関連分野の研究論文
【14】:関連分野の研究論文

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

参加者は授業前に論点や疑問点を示したコメントペーパーを提出すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 報告・レジュメ:40% コメントペーパー:30% 討論への参加:30%

テキスト / Textbooks

ジョン・ロバートソン(野原慎司・林直樹訳)『啓蒙とはなにか:忘却された〈光〉の哲学』 白水社 2019 年 4560096864
ドリンダ・ウートラム(田中秀夫ほか訳)『啓蒙』 法政大学出版局 2017 年 4588010727

参考文献 / Readings

日本 18 世紀学会 『啓蒙思想の百科事典』 丸善出版 2023 年
ジョナサン・イスラエル(森村敏己訳)『精神の革命:急進的啓蒙と近代民主主義の知的起源』 みすず書房 2017 年
ピーター・ゲイ(中川久定ほか訳)『自由の科学』(ミネルヴァ・アーカイブズ、全 2 巻) ミネルヴァ書房 2014 年
エルンスト・カッシーラー(中野好之訳)『啓蒙主義の哲学』(上・下巻) ちくま学芸文庫 2003 年

作成:2024/10/02
科目コード:ND209

日本政治思想史研究

History of Japanese Political Thought 1
政治思想史の方法論

松田　宏一郎(MATSUDA KOICHIRO)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND209
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP5810
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業の目的は、政治思想史学の方法論について、これまでの業績を確認し、特に東アジアの思想史について、どのようなアプローチが有効かを検討することである。
This course aims to examine the achievements to date in the methodology of the history of political thought and to consider what approaches can be effective, particularly with regard to the intellectual history of East Asian thought.

授業の内容 / Course Contents

政治思想史の方法については、多くの研究蓄積がある。しかし、非ヨーロッパ言語の思想を対象にする場合、どのようなアプローチが有効か、西洋思想の場合とどのような違いがあるのか、安易な文化比較やステレオタイプな枠組みをどのように回避したら良いのかについて、検討の余地は多い。様々な方法論的著作を検討しながら、参加者と共にこれらの問題を考察する。
There is a great deal of previous research on the methods of the history of political thought. However, there is much room for consideration as to what approaches are effective when targeting non-European language ideas, how they differ from those of Western thought, and how to avoid easy cultural comparisons and stereotypical frameworks. We will consider these issues by examining different methodologies.

授業計画 / Course Schedule

【1】:テキスト講読と討論
【2】:テキスト講読と討論
【3】:テキスト講読と討論
【4】:テキスト講読と討論
【5】:テキスト講読と討論
【6】:テキスト講読と討論
【7】:テキスト講読と討論
【8】:テキスト講読と討論
【9】:テキスト講読と討論
【10】:テキスト講読と討論
【11】:テキスト講読と討論
【12】:テキスト講読と討論
【13】:テキスト講読と討論
【14】:テキスト講読と討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

指定された文献を授業までに読んでおき、問題点を整理する

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告および討論内容:100%

テキスト / Textbooks

初回の授業で指示する

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:ND212

国際政治特論

International Politics 2
国際政治の必読文献を読む

鈴木　絢女(SUZUKI AYAME)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND212
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP5610
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

1、国際政治学の基本文献を講読する
2、文献を批判的に読み、書評を執筆する能力を得る
3、国際政治学のパラダイムを正しく理解する(教科書だけを読んで分かった気にならない)
By the end of the semester, students are expected to:
1、develop reading skill through critical reading of the basic literatures of international politics;
2、produce a book review;
3、understand the paradigms of international politics.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、国際政治学の基礎文献を講読する。履修者は、学部レベルで国際政治学のパラダイムについて学んでいると思うが、実際に原著を読んでみることで、パラダイムの理解は格段に深まるはずである。また、紙幅の制約の多い教科書等での文献の紹介では得られない知見も得ることができる。
このコースでは、モーゲンソーやナイ、ウォルツなど 20 世紀の国際政治学を牽引した文献を読んだあと、今世紀に入って最もよく読まれているミアシャイマーやケーガンらの文献を読む。これにより、国際政治学の特徴や変化も明らかになるだろう。
課題文献の量は、履修者の人数や国際政治学の習熟度に合わせて調整するため、初回の授業に出席することが望ましい。ただし、事情により出席が叶わない場合は、担当者にメールで連絡すること。初回授業での議論の結果として授業計画が変更される可能性があるが、その場合は履修者に相談のうえ確定、周知する。また、履修者の習熟度に応じて、本の読み方についても解説する。
In this class, we will read basic literatures in international relations. I assume that the students have already studied the paradigms of IR at the undergraduate level, but reading the original works will undoubtedly deepen their understanding of these paradigms. In addition, reading thse essential works gives us insights that are often ommitted in the textbooks of IR.
Reading assignments include literatures from 20th century such as Morgenthau, Nye, and Waltz. We will also read widely-read works in the 21st century. This will reveal the characteristics and changes in American IR.
The volume of reading materials will be adjusted according to the number of participants and their proficiency in IR, so be sure to attend the first session. Course schedule may significantly change accordingly.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション:課題文献の紹介と決定
【2】:文献講読(1):モーゲンソー『国際政治』

【3】:文献講読(2):モーゲンソー『国際政治』
【4】:文献講読(3):ナイ『ソフト・パワー』
【5】:文献講読(4):ウォルツ『人間、国家、戦争:国際政治の 3 つのイメージ』
【6】:文献講読(5):ウォルツ『人間、国家、戦争:国際政治の 3 つのイメージ」
【7】:文献講読(6):Wendt, Social Theory of International Politics
【8】:文献講読(7):Wendt, Social Theory of International Politics
【9】:文献講読(8):ミアシャイマー『大国政治の悲劇』
【10】:文献講読(9):Kagan, The Return of History
【11】:文献講読(10):Kagan, The Return of History
【12】:文献講読(11):ラギー『平和を勝ち取る』
【13】:文献講読(12):ナイ「スマート・パワー」
【14】:まとめと討論／書評準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

課題文献の購読、報告準備、書評の執筆

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 個人報告:40% 議論への参加:20% 書評:40%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

モーゲンソー 『国際政治:権力と平和』 岩波文庫 2013 4003402812
ナイ、ジョセフ Jr. 『ソフト・パワー: 21 世紀国際政治を制する見えざる力』 日経 BP マーケティング 2004 4532164753
ウォルツ、ケネス 『人間・国家・戦争: 国際政治の 3 つのイメージ』 勁草書房 2013 4326302186
Wendt, Alexander Social Theory of International Politics (Cambridge Studies in International Relations Book 67) Cambridge University Press 1999 0521469600
ミアシャイマー、ジョン G. 『大国政治の悲劇』 五月書房新社 2017 4772706003
ラギー、ジョン G. 『平和を勝ち取る―アメリカはどのように戦後秩序を築いたか』 岩波書店 2009 4000247093
ナイ、ジョセフ Jr. 『スマート・パワー: 21 世紀を支配する新しい力』 日経 BP マーケティング 2011 4532167922
課題文献は、初回授業時に確定する。

作成:2024/10/02
科目コード:ND213

行政学研究

Public Administration 1

原田　久(HARADA HISASHI)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND213
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP5610
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業は，受講者が最近の行政研究のトレンドや課題を自ら読み取る能力の習得を目標とする。
The objective of this course is to have students develop the ability to read on their own about the latest trends and issues in administrative research.

授業の内容 / Course Contents

今学期は村上祐介『教育行政の政治学』(木鐸社、2011 年)及び関連する論文等を輪読する。
Murakami(2011) and related articles on the Borad of Education will be used for the reading materials.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:村上『教育行政の政治学』序章
【3】:村上『教育行政の政治学』第 1 章
【4】:村上『教育行政の政治学』第 2 章
【5】:村上『教育行政の政治学』第 3 章
【6】:村上『教育行政の政治学』第 4 章
【7】:村上『教育行政の政治学』第 5 章
【8】:村上『教育行政の政治学』第 6 章及び終章
【9】:伊藤正次「首長制の責任領域の拡大が問われる」都市問題第 98 巻 7 号(2007 年)
【10】:伊藤正次「自治体の行政委員会制度と執政制度」公法研究第 79 号(2017 年)
【11】:伊藤正次「自治体の行政委員会制度」都市問題第 108 巻 5 号(2017 年)
【12】:柳与志夫「社会教育施設への指定管理者制度導入に関わる問題点と今後の課題」レファレンス第 62 巻 2 号(2012 年)
【13】:日本博物館協会「日本の博物館総合調査報告書」第 1 章
【14】:日本博物館協会「日本の博物館総合調査報告書」第 2 章

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

実証的な行政研究の論文を複数読んだ上で第 1 回目の授業に臨むこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 発表内容:50% ディスカッションへの参加:50%

テキスト / Textbooks

村上祐介『教育行政の政治学』木鐸社 2011 9784833224406

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:ND216

アメリカ政治特論

American Politics 2
建国以来のアメリカ外交の史的展開を理解する

佐々木　卓也(SASAKI TAKUYA)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND216
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP5710
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

アメリカ外交・外交史の基本テキストの精読を通じて、建国以来のアメリカの外交政策について理解を深める。
The purpose of this course is to acquire an essential understanding of the evolution of American diplomacy since the foundation of the Republic by reading a number of basic textbooks on American foreign relations.

授業の内容 / Course Contents

今学期は、佐々木卓也『冷戦』(2011)、Andrew Preston, American Foreign Relations (2019), Charles Kupchan, Isolationism: A History of America's Efforts to Shield Itself from the World (2020)を中心に輪読し、建国以来のアメリカ外交の史的展開を把握する。
Takuya Sasaki, Reisen (2011), Andrew Preston, American Foreign Relations (2019), and Charles Kupchan, Isolationism: A History of America's Efforts to Shield Itself from the World (2020) will be used for the reading materials.

授業計画 / Course Schedule

【1】:はじめに
【2】:佐々木『冷戦』の講読と議論
【3】:佐々木『冷戦』の講読と議論
【4】:Andrew Preston, American Foreign Relations (2019)の講読と議論
【5】:Andrew Preston, American Foreign Relations (2019) の講読と議論
【6】:Charles Kupchan, Isolationism: A History of America's Efforts to Shield Itself from the World の講読と議論
【7】:Kupchan, Isolationism の講読と議論
【8】:Kupchan, Isolationism の講読と議論
【9】:Kupchan, Isolationism の講読と議論
【10】:Kupchan, Isolationism の講読と議論
【11】:Kupchan, Isolationism の講読と議論
【12】:Kupchan, Isolationism の講読と議論
【13】:Kupchan, Isolationism の講読と議論
【14】:まとめ・総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストの事前の講読と理解を前提に授業を進める。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 担当報告の内容:50% 授業での議論参加:50%

テキスト / Textbooks

佐々木卓也『冷戦ーアメリカの民主主義的生活様式を守る戦い』有斐閣 2011
Andrew Preston American Foreign Relations: A Very Short Introduction Cambridge U. Press 2019
Charles Kupchan Isolationism Oxford U. Pr. 2020
使用テキストについては受講者と相談のうえ、変更することがある。

参考文献 / Readings

有賀貞『国際関係史―16 世紀から 1945 年まで』東京大学出版会 2010
有賀貞『現代国際関係史―1945 年から 21 世紀初頭まで』東京大学出版会 2019
青野利彦・倉科一希・宮田伊知郎編『現代アメリカ政治外交史』ミネルヴァ書房 2020
滝田賢治『国際政治史講義』有信堂 2022
西崎文子『アメリカ外交史』東京大学出版会 2022

作成:2024/10/02
科目コード:ND217

アジア政治研究

Asian Politics 1
権威主義体制の分析

倉田　徹(KURATA TORU)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND217
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP5710
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業の目標は権威主義体制の内実について、ミクロな視点から理解を深めることと、その知見をもとに、自身の研究を行い、報告や論文作成の能力を高めることである。
The aim of the course is to deepen students' understanding of the inner workings of authoritarian regimes from a micro perspective and to use their findings to conduct their own research and improve their ability to report and write papers.

授業の内容 / Course Contents

アジアでは、1990 年代までに韓国・台湾・インドネシアなどで見られた民主化のブームが後退している。現在は、権威主義体制による民主化運動の弾圧だけでなく、インドなどでは民主主義体制が強権化する問題が指摘されている。
こうした激変がなぜ発生したのかを、文献を講読することによって考える。また、授業の後半では、本授業の内容を参照しつつ、受講者は自身の修士論文およびリサーチ・ペーパー作成のための準備の一環として、研究報告を行う。
In Asia, the boom in democratisation seen in countries such as South Korea, Taiwan and Indonesia by the 1990s has receded. Currently, not only are authoritarian regimes suppressing democratic movements, but also the problem of democratic regimes becoming more authoritarian is being pointed out in countries such as India. In this seminar, we will examine why such drastic changes occurred by reading related books. In the second half of the class, the students will also present a research report as part of their preparation for their own master's thesis and research paper, referring to the content of this course.

授業計画 / Course Schedule

【1】:ガイダンス・担当者決定
【2】:共通文献講読①
【3】:共通文献講読②
【4】:共通文献講読③
【5】:共通文献講読④
【6】:共通文献講読⑤
【7】:共通文献講読⑥
【8】:共通文献講読⑦
【9】:共通文献講読⑧
【10】:研究発表①
【11】:研究発表②
【12】:研究発表③
【13】:研究発表④
【14】:研究発表⑤

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

担当者は報告のレジュメ等を準備して下さい。他の受講者は必ず次週のテキストを精読して授業に臨んで下さい。また、関連する情報を自身で様々な方法によって収集して下さい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 報告:70% 討論への参加度:30%

テキスト / Textbooks

東島雅昌『民主主義を装う権威主義』千倉書房 2023 9784805112830

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:ND219

ヨーロッパ政治研究

European Politics　1
ヨーロッパから広がる比較政治の視点

小川　有美(OGAWA ARIYOSHI)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND219
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP5710
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

ヨーロッパと世界の政治が取り組む現代的課題について，比較政治のアプローチを用いて理解し，さらに自らリサーチする能力を身につける。2024 年度はヨーロッパとウクライナ・ロシア，最新の福祉国家理論などを重点的トピックとする。
The purpose of this course is to use comparative political approaches to understand and conduct research on different problems in Europe and the world. The main topics in 2024 will be the relations between Europe, Ukraine, and Russia, and the new welfare state theories.

授業の内容 / Course Contents

ヨーロッパの政治・社会に関する最新の文献を講読し，各々の視点からコメントを用意して討議する。特に前半は，ウクライナ問題，福祉国家理論などからトピックを取り上げる。後半は自主発表を行い，さらにディスカッションを通じて比較政治的なアプローチの可能性を探っていきたい。参加者各自が専門とする地域・分野からの「持ち込み」も歓迎する。
Participants read new literature about politics in Europe and prepare their comments to engage in debate. In the first half of the semester, topics such as the Ukraine issues as well as the welfare state theories will be discussed. In the second half, participants will discuss the applicability of comparative political approaches while presenting their topics.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:ヨーロッパの政治・社会に関連する最新の文献講読と討論1:ヨーロッパとウクライナ・ロシア
【3】:ヨーロッパの政治・社会に関連する最新の文献講読と討論2:ヨーロッパとウクライナ・ロシア
【4】:ヨーロッパの政治・社会に関連する最新の文献講読と討論3:ヨーロッパとウクライナ・ロシア
【5】:テーマ別・ディスカッション(映像教材予定)
【6】:ヨーロッパの政治・社会に関連する最新の文献講読と討論4:福祉国家理論
【7】:ヨーロッパの政治・社会に関連する最新の文献講読と討論5:福祉国家理論
【8】:ヨーロッパの政治・社会に関連する最新の文献講読と討論6:福祉国家理論
【9】:ヨーロッパの政治・社会に関連する最新の文献講読と討論7:福祉国家理論
【10】:ヨーロッパの政治・社会に関連する最新の文献講読と討論8:福祉国家理論
【11】:テーマ別ディスカッション(ゲスト・スピーカー予定)
【12】:自主リサーチ準備
【13】:自主リサーチプレゼンテーション1
【14】:自主リサーチプレゼンテーション2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

文献を事前に読み，毎回コメントメモを準備して討議に参加すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 各回コメント:35% 討論への貢献:30% 報告・プレゼンテーション:35%

テキスト / Textbooks

田中拓道 『 福祉国家の基礎理論－グローバル化時代の国家のゆくえ』 岩波書店 2023 9784000616157
塩川伸明他 『ロシア・ウクライナ戦争－歴史・民族・政治から考える』 東京堂出版 2023 9784490210910
テキストの入手方法については初回授業で指示を仰ぐこと。

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

レジュメ・資料の配布に「Canvas LMS」を使用するので，事前にダウンロードするか，または PC，タブレット等で資料を見ながら授業を受けられるようにすること。履修登録確定前のレジュメ・資料については以下の「Google ドライブ」で配布する。https://drive.google.com/drive/folders/1poSirVWonJyRgS9rC4h9xxTgb0HbYgBb?usp=sharing

作成:2024/10/02
科目コード:ND222

公共政策特論

Public Policy

浅井　亜希(ASAI AKI)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND222
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP5610
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

社会政策を例として、政策を研究するための様々なアプローチ方法を習得する。
The objective of this course is to learn various approaches for your own research, with focus on Public Policy.

授業の内容 / Course Contents

この授業においては、社会政策を例として、公共政策の主体となる福祉国家に関する最新の研究を整理するともに、政策研究のためのアプローチ方法を身につける。
はじめに、政策研究のための様々な方法論を習得するため、入門書や論文を使用し輪読を行う。
次に、福祉政治や社会政策に関する文献講読を行い、福祉国家研究および最新の研究動向を紹介する。
また、受講者の研究テーマにそった研究報告を行い、政策にいかにアプローチしていくか、議論・検討を行う。
In this course, we will learn about the latest research on Welfare State and Social Policy, and learn various approaches to Public Policy research. We open by reading basic books and articles to learn various approaches. In the second part of the class, students are expected to make research presentations according to their own research, and they will discuss methods for policy research.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:政策を研究するためのアプローチ方法(1)
【3】:政策を研究するためのアプローチ方法(2)
【4】:政策を研究するためのアプローチ方法(3)
【5】:政策を研究するためのアプローチ方法(4)
【6】:政策を研究するためのアプローチ方法(5)
【7】:福祉政治や社会政策に関する文献講読(1)
【8】:福祉政治や社会政策に関する文献講読(2)
【9】:福祉政治や社会政策に関する文献講読(3)
【10】:福祉政治や社会政策に関する文献講読(4)
【11】:受講者による研究報告(1)
【12】:受講者による研究報告(2)
【13】:受講者による研究報告(3)
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	

個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

自身の研究テーマにそった政策の研究動向、および研究へのアプローチ方法を検討してほしい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 報告およびプレゼンテーション:80% ディスカッションへの貢献:20%

テキスト / Textbooks

秋吉 貴雄 『入門 公共政策学 - 社会問題を解決する「新しい知」』 中央公論新社 2017 4121024397
あわせて最新の政策研究や、受講者の関心にそった書籍または論文を輪読する。

参考文献 / Readings

授業中に適宜指示する。

作成:2024/10/02
科目コード:ND224

地方自治特論

Local Governance
比較でとらえる地方自治

小林　大祐(KOBAYASHI DAISUKE)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND224
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP5610
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

地方自治やその周辺領域を研究する際に必要な基礎的な知識を身につけたうえで、地方自治のしくみ、機能、政策について比較の観点から分析できるようになることを目標とする。
The goals of this course are to obtain the fundamental knowledge of local governments and the abilities to analyze the system and functions of local governments and public policies in local governments in terms of comparative studies.

授業の内容 / Course Contents

学会誌を中心とした 1～2 編の論文、あるいは著作(いずれも日本語)を素材として、地方自治の考え方、しくみ、課題について検討する。なお、授業計画は以下のとおりであるが、各テーマで扱う具体的なテーマについては、履修者の関心に合わせて選択される。
This course deals with the system and problems of local governments as well as the ways of analyzing local governments. In this course, we use one or two papers from an academic journal or books (written in Japanese). The course plan is as shown below, but specific topics will be selected according to the interests of the students.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:地方自治の基礎①研究の方法と視角
【3】:地方自治の基礎②地方自治と都市政治
【4】:地方自治の基礎③地方自治の歴史的展開
【5】:自治制度①首長と地方議会
【6】:自治制度②市民参加のしくみ
【7】:自治制度③地方行政機構と組織編制
【8】:自治制度④政府間関係
【9】:地方自治の資源①自治体と財政
【10】:地方自治の資源②地方公務員
【11】:地方自治の資源③地域コミュニティと連携・共創
【12】:地方自治と政策①都市政策と地域政策
【13】:地方自治と政策②地域交通
【14】:比較地方自治の理論と展開

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	

個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

指示された課題について報告、討論できるように準備する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 報告:60% 討論への参加度・貢献度:40%

テキスト / Textbooks

特定のテキストは用いない。

参考文献 / Readings

礒崎初仁・金井利之・伊藤正次 『ホーンブック地方自治〔新版〕』 北樹出版 2020 4779306329
宇野二朗・長野基・山崎幹根編著 『テキストブック地方自治の論点』 ミネルヴァ書房 2022 4623091694
北村亘・青木栄一・平野淳一 『地方自治論―2 つの自律性のはざまで(有斐閣ストゥディア)』 有斐閣 2017 4641150486
曽我謙悟 『日本の地方政府―1700 自治体の実態と課題』 中央公論新社 2019 4121025377
中央大学法学部編 『都市政治論』 中央大学出版部 2023 4805711604
長濱政壽 『地方自治』 岩波書店 1952
原田久 『行政学〔第 2 版〕』 法律文化社 2022 4589041952

作成:2024/10/02
科目コード:ND261

法学政治学特別リサーチ

Special Topics in Law and Politics
国際関係の理論と現実の諸問題

井出　敬二(IDE KEIJI)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND261
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP5910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

国際関係の具体的な歴史的および今日的問題を、それに関係する理論も併せて理解する。
To understand historical and today's inernational issues, including relevant theories.

授業の内容 / Course Contents

いわゆるリベラル国際秩序が、特に 2008 年のリーマン・ショック後、ロシアのウクライナ侵攻、"権威主義"国家の台頭、ポピュリズムなどにより挑戦にさらされているとの最近の言説を検討する。現実の問題を分析する上で関連する理論の理解は非常に重要であり、国際関係理論関連、その他の重要文献を読む。米国、中国、ロシア、そして(主に第二次大戦前の)日本の国際秩序への態度について考察する。
To examine the recent discourse that the so-called Liberal International Order (LIO) is under challenge by Russian invasion to Ukraine, spread of "authoritarian" states and populism, especially after the economic crisis of 2008.　In order to analyze the real problems, the students will read important litrature related of the Internatonal Relations (IR) theory and others. To reflect upon the U.S., Chinese, Russian and (pre-WWII) Japanese attitudes toward the international order.

授業計画 / Course Schedule

【1】:ガイダンス、国際関係と国際関係論の概観、今日の国際秩序の諸原則
【2】:古代の秩序ーギリシャ(トウーキュディデース、プラトン、アリストテレス)、中国(儒教、周の封建制と秦以降の中央集権制)(西嶋定生)、古代帝国
【3】:ウェストファリア体制、リアリズムとリベラリズムの源流(ホッブス、カント、他)
【4】:第一次大戦後の国際秩序(帝国の解体/国民国家、レーニン、ウィルソン、E.H.カー、カール・シュミット)
【5】:中国と国際秩序(1)(J.K.フェアバンク、梁啓超、孫文、他)
【6】:アジア主義と小日本主義(国際秩序観、石橋湛山)
【7】:冷戦後のユーフォリアと共産圏(F.フクヤマ、ユーゴスラビア、ソ連、中国)
【8】:中国と国際秩序(2)(毛沢東、鄧小平とその後)(中露国境問題、中印国境問題、他)
【9】:リベラル国際秩序論(アイケンベリー)
【10】:グローバリゼーション、国際貿易・投資体制(GATT、WTO、FTA、新しい課題(データ、情報、AI))
【11】:リベラル国際秩序論への批判(ミアシャイマー)
【12】:ロシアと国際秩序(ツィガンコフ、プーチン)
【13】:外部講師(中東情勢の専門家)
【14】:外部講師(国際的な裁判所の関係者)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

原則毎回、課題文献を指定するので、学生は事前に読み、授業での議論に積極的に参加していただきたい。随時提出物を求めるので、提出していただきたい。

日頃から新聞、NHK(ニュース、国際報道)などの報道に目を通していただきたい。外国語のメディアにも目を通すことが望ましい(Economist、Financial Times、New York Times、Foreign Affairs、Le Monde、Novaya gazeta Europe など)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 学期中に指示する提出物(4%×10 回):40% 中間レポート:20% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

テキストは特に指定しない。毎回、読むべき図書・論文、参考文献などを事前に指定する。

参考文献 / Readings

トウーキュディデース『戦史』(全 3 巻) 岩波書店 1966
カント『永遠平和のために／啓蒙とは何か 他 3 編』 光文社 2006 9784334751081
カー、E.H. 『危機の二十年』 岩波書店 2011 9784003402214
シュミット、カール 『政治的なものの概念』 岩波書店 2022 9784003403020
ウェバー、M. 『儒教と道教』 創文社 1971 4423492075
村田晃嗣、他 『国際政治学をつかむ(新版)』 有斐閣 2015 9784641177222
井出敬二 『＜中露国境＞交渉史:国境紛争はいかに決着したのか？』 作品社 2017 9784861826191
プラトン、『国家』
アリストテレス、『政治学』
ホッブス、『リヴァイアサン』
レーニン、『帝国主義論』
Fairbank, J.K.,The Chinese World Order,Harvard Univ. Press,1968
松浦正孝、『「大東亜戦争」はなぜ起きたのか』、名古屋大学出版会、2010
松浦正孝編、『アジア主義は何を語るのか』、ミネルヴァ書房、2013
フクヤマ、フランシス、渡部昇一訳、『歴史の終わり』上下、三笠書房、1992
ハンチントン、サミュエル、鈴木主税訳、『文明の衝突』、集英社、1998
アイケンベリー、ジョン、G.、細谷雄一監訳、『リベラルな秩序か帝国か』、勁草書房、2012
アイケンベリー、ジョン、G.、岩崎良行訳、『民主主義にとって安全な世界とは何か:国際主義と秩序の危機』、西村書店、2021
西嶋定生、『秦漢帝国 中国古代帝国の興亡』、講談社学術文庫、1997
梁啓超、岡本隆司、石川偵浩、高嶋航編訳、『梁啓超文集』、岩波文庫、2020
孫文、「大亜細亜主義の意義と日支親善の唯一策」、『改造』1925 年 1 月号
中嶋嶺雄、『増補 現代中国論ーイデオロギーと政治の内的考察ー』、青木書店、1971
加地伸行、『儒教とは何か(増補版)』、中公新書、2015
興梠一郎、『毛沢東 革命と独裁の原点』、中央公論新社、2023
フレイヴェル、テイラー、松田康博監訳、『中国の領土紛争』、勁草書房、2019
下斗米伸夫、『プーチン戦争の論理』、集英社インターナショナル、2022
プーチン、ウラジーミル、山形浩生編訳、『プーチン重要論説集』、星海社、2023
Tsygankov, Andrei and Tsygankov, Pavel, "National Ideology and IR theory: Three incarnations of the 'Russian idea'", European Journal of International Relations, 2010, 16(4)

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

英語文献も読むので、ある程度の英語読解能力が必要。

作成:2024/10/02
科目コード:ND262

法学政治学特別リサーチ

Special Topics in Law and Politics
中国ナショナリズムを考える

馬　嘉嘉(MA JIAJIA)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND262
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP5910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	学部科目 EX857「演習」と合同授業 留学生の積極的な履修を歓迎します		

授業の目標 / Course Objectives

この演習では、近年高揚してきている中国ナショナリズムについて考える。本演習は留学生の受講を歓迎しており、異なるバックグラウンドを持つ履修者同士が文献学習やディスカッションを通じて自分たちの住む地域について理解を深めていく。また、グループワークを通じて文献調査、プレゼンテーションのスキルを磨く。
In this seminar, we will examine the recent upsurge in Chinese nationalism. Participants from different backgrounds will deepen their understanding of the region in which they live through literature study and discussion. Participants will also hone their literature research and presentation skills through group work.

授業の内容 / Course Contents

米中貿易戦争が始まった 2018 年から、中国社会の対外ナショナリズムは顕著に高まってきた。同時に、中国経済が低迷する中、中国指導部は台湾統一に対してより積極的なシグナルを示してきている。「台湾統一」も中国ナショナリズムと深く結びついている。この演習では、文献学習やグループワークを通して中国ナショナリズムの正体と、それが果たしてきた役割を探究する。
なお、履修者の人数や関心によって文献報告の回数、毎回の報告者の数を決めるので、授業計画はその目安と考えてください。中国の資料・ニュース・背景事情を説明する時には中国語を使う場合がある。
Since the start of the U.S.-China trade war in 2018, there has been a marked increase in external nationalism in Chinese society. At the same time, the Chinese leadership has been giving more positive signals for Taiwan unification amid the sluggish Chinese economy. Taiwan unification is also deeply tied to Chinese nationalism. In this seminar, we will explore the nature of Chinese nationalism and the role it has played through literature study and group work. Please note that the number of literature reports and the number of presenters each time will be determined by the number of participants and their interests, so please consider the class plan as a guide. Chinese may also be used when explaining Chinese materials, news, and background information.

授業計画 / Course Schedule

【1】:ガイダンス
【2】:テキストの輪読(1)
【3】:テキストの輪読(2)
【4】:テキストの輪読(3)
【5】:テキストの輪読(4)
【6】:テキストの輪読(5)
【7】:テキストの輪読(6)
【8】:テキストの輪読(7)

【9】:テキストの輪読(8)
【10】:テキストの輪読(9)
【11】:グループワーク(1)
【12】:グループワーク(2)
【13】:グループワーク(3)
【14】:最終報告＆総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

ガイダンスとグループワークを除いてテキストの輪読を行う。報告者が指定の時間までに担当する内容の主旨・論点を整理し、自分のコメント・疑問点を加えて提出すること。他の履修者は指定の時間までにコメント・疑問点をまとめて提出すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 担当内容の報告:40% コメントペーパー:30% 議論への貢献:30%
全ての評価方法において合同授業を履修する学部生よりも高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

丸川哲史『中国ナショナリズム―もう一つの近代をよむ』法律文化社 2019 9784589036926
江藤名保子『中国ナショナリズムのなかの日本』勁草書房 2019 9784326973019
教員からの指示があるまで購入する必要はない。

参考文献 / Readings

小野寺史郎『中国ナショナリズム―民族と愛国の近現代史』中央公論新社 2017 9784121024374
古田元夫『アジアのナショナリズム』山川出版社 1996 9784634344204

作成:2024/10/02
科目コード:ND271

政治学総合演習(1)

Political Science Research Workshop (1)
政治学研究の方法と実践

松田　宏一郎／松浦　正孝(MATSUDA KOICHIRO/ MATSUURA MASATAKA)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND271
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	1	科目ナンバリング	LAP6910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	後期課程科目 TX201「政治学総合演習(1)」と合同授業 政治学専攻の学生は毎学期自動登録		

授業の目標 / Course Objectives

政治学の研究にあたり，習得した知識に基づいて，複眼的な発想から研究を行い、その成果を発表する能力を養うこと、また、他の研究者の研究に対するコメントや評価を行う能力を養うことを目標とする。
The purposes of this course are (1) to cultivate the ability to conduct research drawing from multifaceted thinking; (2) to announce results based on acquired knowledge with respect to Political Science research; and (3) to cultivate the ability to comment on and evaluate others' research.

授業の内容 / Course Contents

この演習では，大学院生が各自の研究成果の発表を行い，それに対して，正・副の指導教員のみならず他の教員や博士前・後期の大学院生なども参加して，多角的に研究指導を行う。具体的には，修士論文(リサーチペーパー)の構想発表，学会や研究会などでの発表の予行演習としての報告，学術雑誌等への投稿予定論文の内容報告などを予定している。毎回の授業において、報告担当者は自らテーマを設定して報告内容および報告資料を用意し、それに基づいて自らの研究構想を教員・学生の前で報告する。在席の学生は、他の学生の報告に対して質問やコメントを行い、学術的な議論を実践する。政治学を専攻する大学院生は，前期課程の学年にかかわらず、特別な事情がない限り，この演習を履修し，出席しなければならない。
This course aims for graduate school students to present the results of their own research, with participation not only from principal and assistant advisory faculty members but also other faculty members and master's/doctoral graduate students, in order to provide research guidance from many different angles. Specifically, students are scheduled to present the concepts behind their master's papers (research papers) and doctoral dissertations, reports given as a rehearsal for presentations at conferences and workshops, and reports about the contents of papers scheduled to be submitted to academic journals. During each meeting, the student presenting a report selects the topic and prepares the presentation content and materials for presenting their research concept to faculty members and students. The students in the audience ask questions and comment on the reports of other students to practice engaging in academic discussions. All graduate students majoring in Political Science, regardless of their class year or whether they are in the master's program or doctoral program, must take and attend this course unless there are extenuating circumstances.

授業計画 / Course Schedule

【1】:研究報告1
【2】:研究報告2
【3】:研究報告3
【4】:研究報告4
【5】:研究報告5

【6】:研究報告6
【7】:研究報告7

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

演習で報告者は，修士論文(リサーチペーパー)，その他学術論文を作成するための報告を行う。報告者は，報告にあたっての資料を準備し，配布する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 出席および討論への参加:50% 研究報告:50%
火曜日 3 限に設定されているが、4 限まで延長されることがある

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:ND272

政治学総合演習(2)

Political Science Research Workshop (2)
政治学研究の方法と実践

松田　宏一郎／松浦　正孝(MATSUDA KOICHIRO/ MATSUURA MASATAKA)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND272
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	1	科目ナンバリング	LAP6910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	後期課程科目 TX202「政治学総合演習(2)」と合同授業 政治学専攻の学生は毎学期自動登録		

授業の目標 / Course Objectives

政治学の研究にあたり，習得した知識に基づいて，複眼的な発想から研究を行い、その成果を発表する能力を養うこと、また、他の研究者の研究に対するコメントや評価を行う能力を養うことを目標とする。
The purposes of this course are (1) to cultivate the ability to conduct research drawing from multifaceted thinking; (2) to announce results based on acquired knowledge with respect to Political Science research; and (3) to cultivate the ability to comment on and evaluate others' research.

授業の内容 / Course Contents

この演習では，大学院生が各自の研究成果の発表を行い，それに対して，正・副の指導教員のみならず他の教員や博士前・後期の大学院生なども参加して，多角的に研究指導を行う。具体的には，修士論文(リサーチペーパー)の構想発表，学会や研究会などでの発表の予行演習としての報告，学術雑誌等への投稿予定論文の内容報告などを予定している。毎回の授業において、報告担当者は自らテーマを設定して報告内容および報告資料を用意し、それに基づいて自らの研究構想を教員・学生の前で報告する。在席の学生は、他の学生の報告に対して質問やコメントを行い、学術的な議論を実践する。政治学を専攻する大学院生は，前期課程の学年にかかわらず、特別な事情がない限り，この演習を履修し，出席しなければならない。
This course aims for graduate school students to present the results of their own research, with participation not only from principal and assistant advisory faculty members but also other faculty members and master's/doctoral graduate students, in order to provide research guidance from many different angles. Specifically, students are scheduled to present the concepts behind their master's papers (research papers) and doctoral dissertations, reports given as a rehearsal for presentations at conferences and workshops, and reports about the contents of papers scheduled to be submitted to academic journals. During each meeting, the student presenting a report selects the topic and prepares the presentation content and materials for presenting their research concept to faculty members and students. The students in the audience ask questions and comment on the reports of other students to practice engaging in academic discussions. All graduate students majoring in Political Science, regardless of their class year or whether they are in the master's program or doctoral program, must take and attend this course unless there are extenuating circumstances.

授業計画 / Course Schedule

【1】:研究報告1
【2】:研究報告2
【3】:研究報告3
【4】:研究報告4
【5】:研究報告5

【6】:研究報告6
【7】:研究報告7

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

演習で報告者は，修士論文(リサーチペーパー)，その他学術論文を作成するための報告を行う。報告者は，報告にあたっての資料を準備し，配布する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 出席および討論への参加:50% 研究報告:50%
火曜日 3 限に設定されているが、4 限まで延長されることがある

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:ND363

統計学特論

Statistics

小野原　彩香(ONOHARA AYAKA)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND363
授業形態	オンライン(一部対面)	授業形態(補足事項)	オンライン(一部対面)
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP5900
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

統計学に関する基礎的な内容および記述統計の基礎を固め，推定・仮説検定という推測統計の基礎を身につける。 また、解析ソフト等を用いたデータ分析スキルも身につける。

The basic content on Statistics and the basis of descriptive statistics are solidified, and the basis of inferential statistics of estimation and hypothesis testing are acquired. Also, data analysis skills using analytical software will be acquired.

授業の内容 / Course Contents

大量で多様なデータが次々に生まれ蓄積され続けており，「ビッグデータ」という言葉が次第に社会に浸透している。このようなこともあり，社会の中で統計学への関心が高まっており，データをもとに意思決定できる人材への期待は増している。しかしながら，実際にデータを活用できる人材は不足しているのが現状である。データをもとに意思決定するためには，目的に応じてデータを適切に取得し統計学的知識を用いて活用する方法を学ばなくてはならない。14 回に渡って記述統計学，推測統計学の順に統計学の概要を説明していく。まずは 1 変数データの要約および 2 変数データの要約などの記述統計の基礎を固め，その後，推測統計の基礎となる確率変数や母集団と標本の関係を紹介し，標本分布という重要な概念を理解する。その後，推定や仮説検定という推測統計の基礎を身に付けることができるよう学習を進めていく。

Data is being continuously generated in large quantities to the point that the term “big data” is gradually permeating the vocabulary of general society. As a result of this, general societal interest in statistics has risen, and the need for people who can make decisions after interpreting data has increased. Nevertheless, there is still a distinct shortage of individuals capable practically applying data. In order to make a decision based on data, it is necessary to learn how to acquire data appropriately according to it’s purpose and utilize it using statistical knowledge. The outline of Statistics is explained over 14 classes in the order of descriptive statistics to inferential statistics. First, the basic of descriptive statistics such as summarization of 1 variable data and summarization of 2 variable data, etc., is solidified, and then, the relationship between random variables and population and sample as a basis of inferential statistics is introduced, and the important concept of sample distribution is understood. After that, we will advance further so that the basis of inferential statistics of estimation and hypothesis testing can be acquired.

授業計画 / Course Schedule

【1】:社会と統計(対面)
【2】:R や Pyhton の基礎(対面)
【3】:1 変数データの要約
【4】:1 変数データの要約
【5】:2 変数データの要約
【6】:2 変数データの要約
【7】:確率変数(離散型確率変数)

【8】:確率変数(連続型確率変数)
【9】:統計的推測の基礎(母集団と標本)
【10】:区間推定(母平均の区間推定)
【11】:区間推定(母比率の区間推定)
【12】:仮説検定の発想
【13】:母平均の検定
【14】:母平均の差の検定(対面)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は, 必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 複数回の課題学習活動(25%×4 回):100%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。
資料を配付予定。

参考文献 / Readings

鳥居泰彦『はじめての統計学』日本経済新聞社 1994 9784532130749
石井俊全『意味がわかる統計学』ベレ出版 2012 9784860643041
稲垣宣生他『統計学講義』裳華房 2007 9784785315450

その他 / Others

・本科目では、実際の社会調査で得られたデータを用いる可能性がある(データの利用のための誓約事項がある場合あり)。
・本授業はオンライン(一部対面)である。第 1 回、第 2 回、第 14 回のみ対面でその他は動画を視聴し、統計の基礎知識について整理すること。

作成:2024/10/02
科目コード:ND364

社会調査特論

Social Research Methods

池田　岳大(IKEDA TAKEHIRO)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	ND364
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP5900
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

統計調査を中心としつつ、社会調査全般にわたって意義と諸類型に関する基本的事項を解説する。
This course provides basic information on the significance and various types of social surveys in general, with a focus on statistical surveys.

授業の内容 / Course Contents

社会調査の種類、調査票の作成、データの分析、報告書の執筆などの社会調査の基本的な知識の習得を目指す。
This course aims to provide students with basic knowledge of social research, including types of social surveys, survey design, data analysis, and reports writing.

授業計画 / Course Schedule

【1】:社会調査の目的と意義
【2】:問題関心と仮説の設定(1)
【3】:問題関心と仮説の設定(2)
【4】:社会調査の種類
【5】:調査票作成の方法
【6】:変数の尺度
【7】:無作為抽出
【8】:無作為割当
【9】:様々な標本調査
【10】:調査における誤差
【11】:データの集計・分析(1)
【12】:データの集計・分析(2)
【13】:データの集計・分析(3)
【14】:レポート・報告書の作成

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業で触れたキーワード等についてテキストやインターネットで理解するように努めること

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 複数回の授業内課題:60% 最終テスト割合::40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

松本渉『社会調査の方法論』丸善出版 2021 9784621306314

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

本授業では統計的知識があることを前提に進める。

具体的には、確率論、確率分布、統計的検定、回帰分析の基礎的理解があることが望ましい。

作成:2024/10/02
科目コード:TX101

法学総合演習(1)

Legal Studies Workshop (1)

高橋　美加／佐伯　昌彦(TAKAHASHI MIKA/ SAEKI MASAHIKO)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	TX101
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	1	科目ナンバリング	LAP7910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	前期課程科目 ND172「法学総合演習(1)」と合同授業 2020 年度以降の法学専攻の学生は毎学期自動登録。ただし、6 単位修得後の自動登録は行わない。		

授業の目標 / Course Objectives

各履修者が目下取り組む研究テーマについて，他分野の教員，院生も含めた参加者の前で報告し，討論を通じてより広くかつ高度な研究的視野を確立する。

授業の内容 / Course Contents

毎回，履修者 1 名が，目下取り組む研究テーマについて報告し，それをもとに全員で討論する。この授業は，学生の研究がそれぞれの分野，領域で行われるよう，その刺激を与えることをその目的の一つとしている。したがって，毎回の授業には指導教員や履修者のみならず，可能であれば，他分野の教員も出席して，助言等がなされることが予定されている。履修者も，このような授業の目的，目標に鑑み，積極的に授業に参加することが求められる。

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:受講者による研究報告に引き続き全員で討議
【3】:受講者による研究報告に引き続き全員で討議
【4】:受講者による研究報告に引き続き全員で討議
【5】:受講者による研究報告に引き続き全員で討議
【6】:受講者による研究報告に引き続き全員で討議
【7】:受講者による研究報告に引き続き全員で討議

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

研究報告のタイトルに関連する先行研究を各自が渉猟し、事前に十分に検討しておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合　:100%　出席態度:50%　研究報告および議論の水準:50%
全ての評価方法において前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

とくに指定しない。

参考文献 / Readings

授業中その都度必要があれば指示する。

その他 / Others

＜授業形態＞
演習形式の授業であり，担当者による報告の後，参加者全員によるディスカッションが行われる。
＜フィードバック＞
授業の各回に担当教員からフィードバックを行う。

作成:2024/10/02
科目コード:TX102

法学総合演習(2)

Legal Studies Workshop (2)

高橋　美加／佐伯　昌彦(TAKAHASHI MIKA/ SAEKI MASAHIKO)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	TX102
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	1	科目ナンバリング	LAP7910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	前期課程科目 ND173「法学総合演習(2)」と合同授業 2020 年度以降の法学専攻の学生は毎学期自動登録。ただし、6 単位修得後の自動登録は行わない。		

授業の目標 / Course Objectives

各履修者が目下取り組む研究テーマについて，他分野の教員，院生も含めた参加者の前で報告し，討論を通じてより広くかつ高度な研究的視野を確立する。

授業の内容 / Course Contents

毎回，履修者 1 名が，目下取り組む研究テーマについて報告し，それをもとに全員で討論する。この授業は，学生の研究がそれぞれの分野，領域で行われるよう，その刺激を与えることをその目的の一つとしている。したがって，毎回の授業には指導教員や履修者のみならず，可能であれば，他分野の教員も出席して，助言等がなされることが予定されている。履修者も，このような授業の目的，目標に鑑み，積極的に授業に参加することが求められる。

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:受講者による研究報告に引き続き全員で討議
【3】:受講者による研究報告に引き続き全員で討議
【4】:受講者による研究報告に引き続き全員で討議
【5】:受講者による研究報告に引き続き全員で討議
【6】:受講者による研究報告に引き続き全員で討議
【7】:受講者による研究報告に引き続き全員で討議

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

研究報告のタイトルに関連する先行研究を各自が渉猟し、事前に十分に検討しておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合　:100%　出席態度:50%　研究報告および議論の水準:50%
全ての評価方法において前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

とくに指定しない。

参考文献 / Readings

授業中その都度必要があれば指示する。

その他 / Others

＜授業形態＞
演習形式の授業であり，担当者による報告の後，参加者全員によるディスカッションが行われる。
＜フィードバック＞
授業の各回に担当教員からフィードバックを行う。

作成:2024/10/02
科目コード:TX151

法学研究基礎

Introduction to Legal Studies
法学研究の手法を学ぶ

神橋　一彦／東條　吉純(KANBASHI KAZUHIKO/ TOJO YOSHIZUMI)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	TX151
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP7910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	前期課程科目 ND011「法学研究基礎」と合同授業 法科大学院修了者のみ履修可		

授業の目標 / Course Objectives

法学研究に関して、研究倫理、論文執筆法、研究方法の基本を身につける。学術論文執筆のための研究の出発点になる作業を行う。
The purpose of this class is to acquire the basics of research ethics, essay writing methods, and research methods related to legal research. Students will perform tasks that serve as the starting point for research in order to write academic papers.

授業の内容 / Course Contents

今後の研究を遂行するうえで予め知っておくべき研究倫理、文献探索法、論文執筆法について学ぶ。また、判例(最高裁判例と下級審裁判例)、判例評釈、法学分野の優れた論文を輪読することで、法学の研究方法について理解を深める。授業の具体的内容については、受講者の数、専門分野等を勘案し、最終的に決定する。
Students will learn about research ethics, literature search methods, and paper writing methods that they should know before conducting future research. In addition, by reading precedents (Supreme Court precedents and lower court precedents), commentary on precedents, and excellent articles in the field of law, students will deepen their understanding of legal research methods. The specific content of the class will be finalized after taking into account the number of participants, their field of expertise, etc.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:研究者倫理
【3】:学術論文とは何か
【4】:学術論文を書くために必要なこと
【5】:学術論文に求められる表現
【6】:学術論文のための調査①:判例研究の方法
【7】:学術論文のための調査②:文献資料研究の方法
【8】:学術論文のための調査③:判例文献情報の調査
【9】:判例研究の実践①
【10】:判例研究の実践②
【11】:文献資料研究の実践①
【12】:文献資料研究の実践②
【13】:文献リスト・論文チャプター作成セッション①
【14】:文献リスト・論文チャプター作成セッション②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

報告担当者、それ以外の履修者ともに、指定された教材の予習、復習が義務づけられる。また、各自の修士論文(リサーチペーパー)作成に向けて、文献リストの作成、仮テーマの設定、論文チャプター(アウトライン)と作成のための準備作業を行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 出席および討論への参加:60% 最終レポート割合::40%
全ての評価方法において前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

田高寛貴・原田昌和・秋山靖浩 『リーガル・リサーチ＆リポート〔第 2 版〕』 有斐閣 2019 9784641126114
日本学術振興会『科学の健全な発展のために』、立教大学法学部『ラーニングガイド』、立教大学 『Master of Writing』(MOW)およびその他の教材を配布する予定。

参考文献 / Readings

近江幸治 『学術論文の作法 第2版』 成文堂 2016 4792326915
戸田山和久 『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』 NHK 出版 2012 4140911948
資料を配布する。または Canvas LMS に電子ファイルをアップする予定。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

学術論文執筆に関する必須事項の修得を目的とすることから、特記事項はない。

作成:2024/10/02
科目コード:TX201

政治学総合演習(1)

Political Science Research Workshop (1)
政治学研究の方法と実践

松田　宏一郎／松浦　正孝(MATSUDA KOICHIRO/ MATSUURA MASATAKA)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	TX201
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	1	科目ナンバリング	LAP7910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	前期課程科目 ND271「政治学総合演習(1)」と合同授業 2020 年度以降の政治学専攻の学生は毎学期自動登録。ただし、6 単位修得後の自動登録は行わない。		

授業の目標 / Course Objectives

政治学の研究にあたり，高度な専門的知識に基づいて、独創的な発想から研究を行い、その成果を発表する能力を養うこと、また、他の研究者の研究に対するコメントや評価を行う能力を養うことを目標とする。

授業の内容 / Course Contents

この演習では，大学院生が各自の研究成果の発表を行い，それに対して，正・副の指導教員のみならず他の教員や博士前・後期の大学院生なども参加して，多角的に研究指導を行う。具体的には，博士論文の構想発表，学会や研究会などでの発表の予行演習としての報告，学術雑誌等への投稿予定論文の内容報告などを予定している。毎回の授業において、報告担当者は自らテーマを設定して報告内容および報告資料を用意し、それに基づいて自らの研究構想を教員・学生の前で報告する。在席の学生は、他の学生の報告に対して質問やコメントを行い、学術的な議論を実践する。政治学を専攻する大学院生は，後期課程の学年にかかわらず、特別な事情がない限り，この演習を履修し，出席しなければならない。

授業計画 / Course Schedule

【1】:研究報告1
【2】:研究報告2
【3】:研究報告3
【4】:研究報告4
【5】:研究報告5
【6】:研究報告6
【7】:研究報告7

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

演習で報告者は，博士論文，その他学術論文を作成するための報告を行う。報告者は，報告にあたっての資料を準備

し, 配布する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 出席および討論への参加:50% 研究報告:50%
全ての評価方法において前期課程よりも高度な達成水準を要求する。
火曜日 3 限に設定されているが、4 限まで延長されることがある

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:TX202

政治学総合演習(2)

Political Science Research Workshop (2)
政治学研究の方法と実践

松田　宏一郎／松浦　正孝(MATSUDA KOICHIRO/ MATSUURA MASATAKA)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	TX202
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	1	科目ナンバリング	LAP7910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	前期課程科目 ND272「政治学総合演習(2)」と合同授業 2020 年度以降の政治学専攻の学生は毎学期自動登録。ただし、6 単位修得後の自動登録は行わない。		

授業の目標 / Course Objectives

政治学の専門的な研究にあたり，習得した知識に基づいて，複眼的な発想から高度な研究を行い、その成果を発表する高度な能力を養うこと、また、他の研究者の研究に対する高度なコメントや評価を行う能力を養うことを目標とする。

授業の内容 / Course Contents

この演習では，大学院生が各自の研究成果の発表を行い，それに対して，正・副の指導教員のみならず他の教員や博士前・後期の大学院生なども参加して，多角的に研究指導を行う。具体的には，博士論文の構想発表，学会や研究会などでの発表の予行演習としての報告，学術雑誌等への投稿予定論文の内容報告などを予定している。毎回の授業において、報告担当者は自らテーマを設定して報告内容および報告資料を用意し、それに基づいて自らの研究構想を教員・学生の前で報告する。在席の学生は、他の学生の報告に対して質問やコメントを行い、学術的な議論を実践する。政治学を専攻する大学院生は，後期課程の学年にかかわらず、特別な事情がない限り，この演習を履修し，出席しなければならない。

授業計画 / Course Schedule

【1】:研究報告1
【2】:研究報告2
【3】:研究報告3
【4】:研究報告4
【5】:研究報告5
【6】:研究報告6
【7】:研究報告7

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

演習で報告者は，博士論文，その他学術論文を作成するための報告を行う。報告者は，報告にあたっての資料を準備

し, 配布する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 出席および討論への参加:50% 研究報告:50%
全ての評価方法において前期課程よりも高度な達成水準を要求する。
火曜日 3 限に設定されているが、4 限まで延長されることがある

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:TX251

政治学研究基礎

Introduction to Political Science Research

孫　斉庸／安藤　裕介(SOHN JEYONG/ ANDO YUSUKE)

科目設置学部	法学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	TX251
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LAP7910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	前期課程科目 ND051「政治学研究基礎」と合同授業 法科大学院修了者のみ履修可		

授業の目標 / Course Objectives

研究活動に入ろうとしている大学院の初学者が、研究倫理および論文執筆の方法、研究の方法について学び、不正のない方法で論文執筆を行うための基礎知識を身につけ、それに基づいて基礎的な研究活動を実践し、論文執筆のための基礎的な研究能力をつけること。

This course is designed for graduate students who are at the onset of their research journey. It aims to provide foundational knowledge and skills necessary for engaging in research activities. Students will learn about research ethics, methods of research, and academic writing. The course is structured to ensure that students acquire the essential knowledge to conduct research and write academic papers ethically and competently. Furthermore, it will enable students to undertake basic research activities and develop foundational research competencies essential for thesis writing.

授業の内容 / Course Contents

近年、学術界において、様々な研究不正問題が発生している。政治学研究においても、引用や注の付け方などのルールを軽視または無視した結果、研究不正とみなされる事態を招く可能性がある。この授業では、まず研究の倫理を習得し、何が不正行為に当たるのかについての基礎的な知識を身につける。続いて、情報収集の方法を実践的に学ぶ。さらに、政治学の様々な分野で、それぞれどのような研究方法が取られてきたのかを学び、それらを応用して自らの研究テーマを論文の形にまとめるための力をつける。

前半では、今後の研究を遂行するうえであらかじめ知っておくべき研究倫理と論文執筆方法について学ぶ。後半では、政治学の各専門分野の代表的な著作、最新の優れた研究成果を輪読することで、政治学の様々な研究方法について理解を深める。

In recent years, various instances of research misconduct have emerged within the academic community. In the field of political science, overlooking or disregarding the rules of citation and annotation can lead to situations considered as research misconduct. This course begins with an introduction to research ethics, helping students to understand what constitutes unethical practices. Following this, students will learn practical methods of information gathering. The course also delves into the diverse research methodologies employed in various subfields of political science, enabling students to apply these techniques in developing their research topics into well-structured academic papers.

Initially, the course will cover crucial aspects of research ethics and methods of academic writing that are vital for future research activities. In the second half, students will enrich their understanding of political science research methods by studying and discussing key texts and the latest exemplary research in various sub-disciplines of the field.

授業計画 / Course Schedule

【1】:ガイダンス・担当者の決定

【2】:研究倫理(1)
【3】:研究倫理(2)
【4】:図書館授業内情報検索講習会
【5】:論文執筆方法(1)
【6】:論文執筆方法(2)
【7】:研究領域Ⅰ(理論研究)
【8】:研究領域Ⅱ(思想研究)
【9】:研究領域Ⅲ(歴史研究)
【10】:研究領域Ⅳ(地域研究)
【11】:研究領域Ⅴ(定性研究)
【12】:研究領域Ⅵ(定量研究)
【13】:リサーチデザインの発表(1)
【14】:リサーチデザインの発表(2)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

・報告担当者は教員および受講者に配付資料を用意して、担当箇所を要約して口頭で説明できるように準備する。
・それ以外の受講者は、次回の文献に目を通した後、前日午後 9 時までに、A4 一枚程度の「講読メモ」を教員と他の履修者にメールで送る。「講読メモ」の構成としては、内容の要約→内容に対する評価→疑問点・批判点などコメントがバランスよく含まれていることが望ましい。
・全受講者は、他の参加者が作成した「講読メモ」を事前にチェックしたうえで、授業当日には報告への質問やコメントなどを行って積極的に授業に参加する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 討論への参加:60% 最終レポート割合::40%
全ての評価方法において前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会編 『科学の健全な発展のために : 誠実な科学者の心得』 丸善出版社 2015 年 9784621089149
眞嶋俊造・奥田太郎・河野哲也編著 『人文・社会科学のための研究倫理ガイドブック』 慶應義塾大学出版会 2015 年 9784766422559
川崎剛著 『社会科学系のための「優秀論文」作成術』 勁草書房 2010 年 4326000341
加藤淳子・境家史郎・山本健太郎編 『政治学の方法』 有斐閣 2014 年 9784641220379
G・キング、R・O・コヘイン、S・ヴァーバ著 『社会科学のリサーチ・デザイン : 定性的研究における科学的推論』 勁草書房 2004 年 4326301503

参考文献 / Readings

立教大学法学部『ラーニングガイド』
立教大学 Master of Writing(MOW)